

ほくほくフィナンシャルグループ 2025年9月期 会社説明会資料

2025年11月28日

1. 2025年9月期決算概要	・ ・ ・ P.4
2. 企業価値向上に向けた取り組み	・ ・ ・ P.12
3. 経営基盤の強化	・ ・ ・ P.25
4. 参考資料	・ ・ ・ P.31

2025年9月期 決算概要

本業収益が好調に推移し、連結中間純利益は期初業績予想を大幅に超える着地

- 利回りの改善を主因に資金利益が増加し、コア業務純益は前年同期比111億円増加
- 人的資本投資やシステム投資などの戦略的投資により経費は増加した一方、トップラインの向上によりOHRは着実に改善
- 連結中間純利益は期初予想を88億円上回る303億円（前年同期比+117億円）

企業価値向上に 向けた取り組み

資金利益の増加を背景に、ROEは足元の株主資本コストを上回る水準に上昇

- 貸出金の着実な増強と有価証券ポートフォリオの再構築によりトップラインが向上
- 連結当期純利益の通期業績予想について、期初予想410億円から500億円へ上方修正
- 業績予想の修正を踏まえ、普通株式配当を期初予想の年間70円（中間35円、期末35円）から90円（中間45円、期末45円）に増配

経営基盤の強化

企業価値向上に向けた各種戦略を着実に実行

- 企業価値向上に資する人的資本投資の強化、キャリア採用などの施策は好調に推移
- SX/GXを戦略上の中核と位置づけ、地域・取引先をリードする活動を実践
- 持続的成長を実現するためのブランディング戦略の強化

2025年9月期決算概要

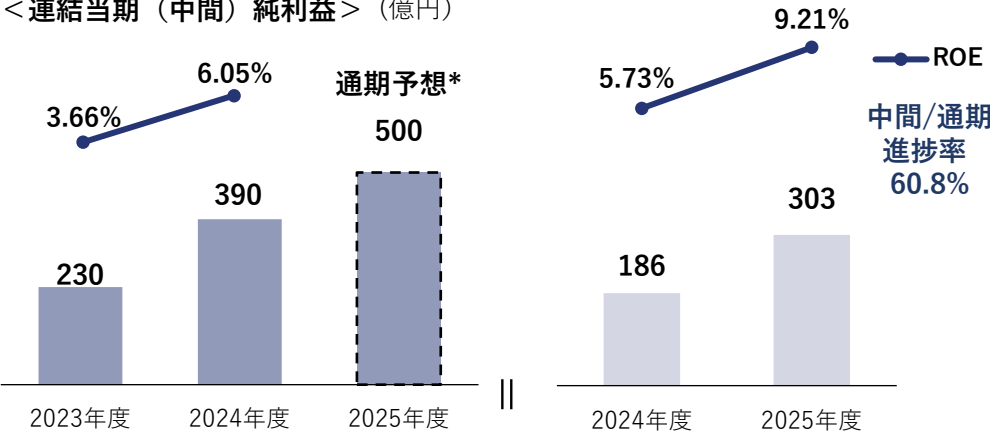


地域を超えて、
輝く未来を創る。

➤ 資金利益を中心に本業収益が堅調に推移し、中間純利益は前年度・期初公表の中間予想を上回る水準

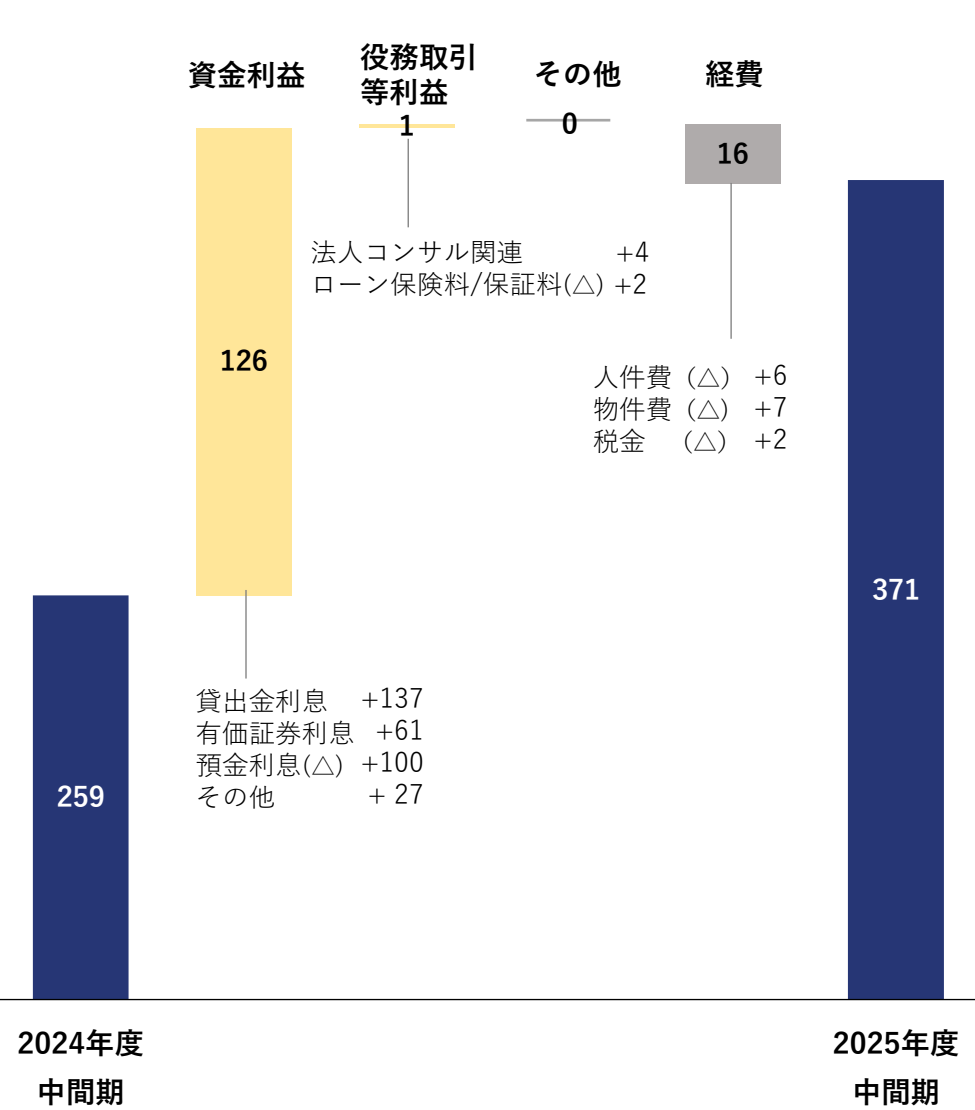
連結（億円）	業績予想 中間期	2025年度		2024年度
		中間期	前年同期比	中間期
コア業務粗利益		818	127	691
資金利益		666	126	539
役務取引等利益		137	1	136
経費（△）		447	16	431
（参考）OHR		54.63%	△ 7.78%	62.41%
コア業務純益		371	111	259
有価証券関係損益		28	2	25
与信関係費用（△）		△ 11	△ 32	21
経常利益	【315】	417	162	255
法人税等（△）		109	44	64
中間純利益	【215】	303	117	186

<連結当期（中間）純利益>（億円）

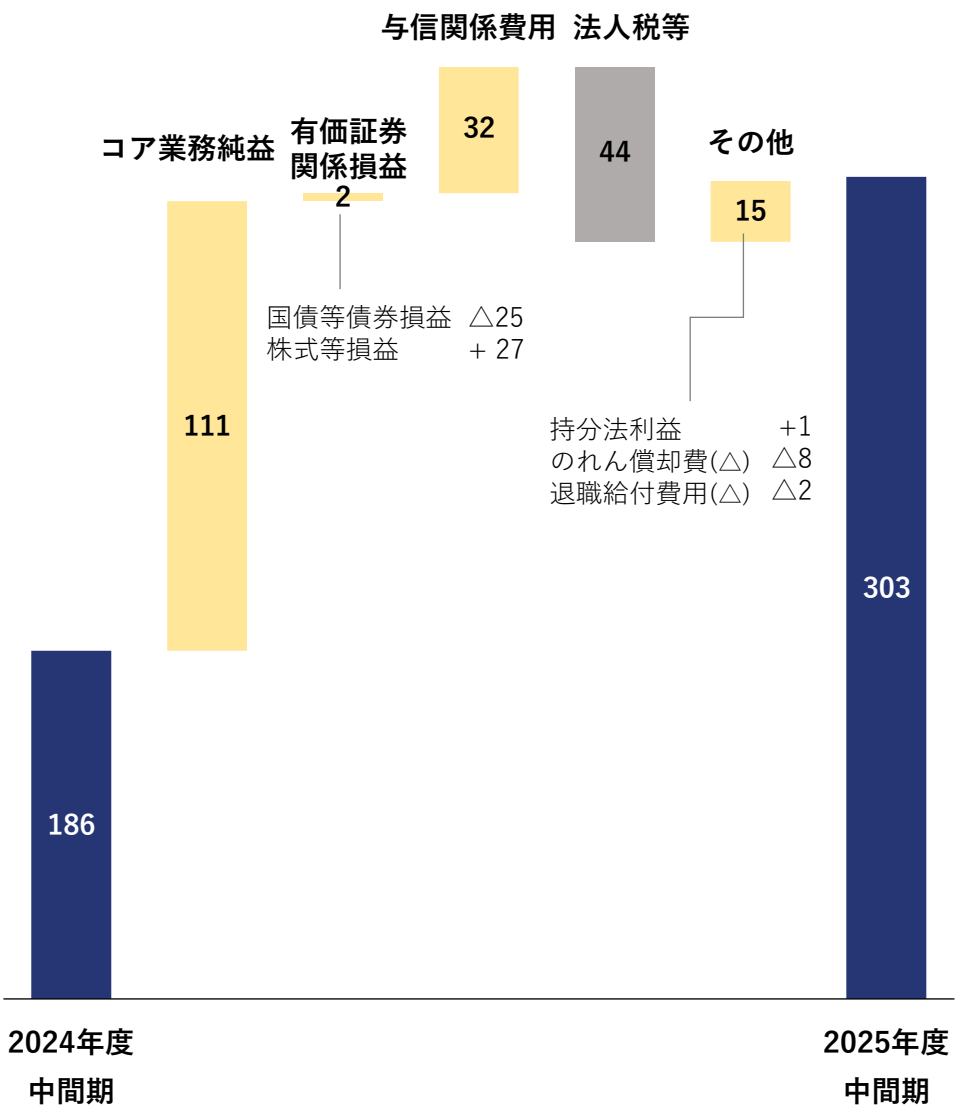


2行合算（億円）	業績予想 中間期	2025年度		2024年度
		中間期	前年同期比	中間期
コア業務粗利益	【730】	764	117	647
資金利益		670	121	549
うち貸出金利息		586	138	447
うち有価証券利息		192	54	137
役務取引等利益		95	△ 4	99
その他（国債等債券損益除く）		△ 1	0	△ 1
経費（△）	【430】	412	13	399
（参考）OHR		53.99%	△ 7.77%	61.76%
コア業務純益	【300】	351	104	247
国債等債券損益		△ 49	△ 22	△ 26
実質業務純益		302	81	221
与信関係費用（△）	【20】	△ 18	△ 38	20
株式等損益		77	27	50
経常利益	【305】	404	151	253
特別損益		△ 3	△ 0	△ 2
法人税等（△）		103	44	59
中間純利益	【205】	297	105	191

トップライン[コア業務純益] 増減要因 (億円)



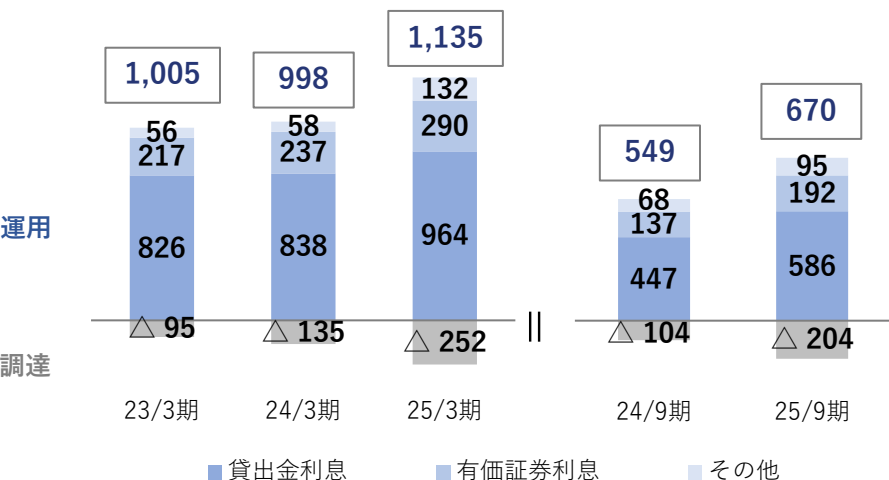
ボトムライン[中間純利益] 増減要因 (億円)



➤ 貸出金や有価証券などの運用利回りが改善し、利ざやは拡大。また、残高積み上げも寄与し、資金利益は堅調に推移

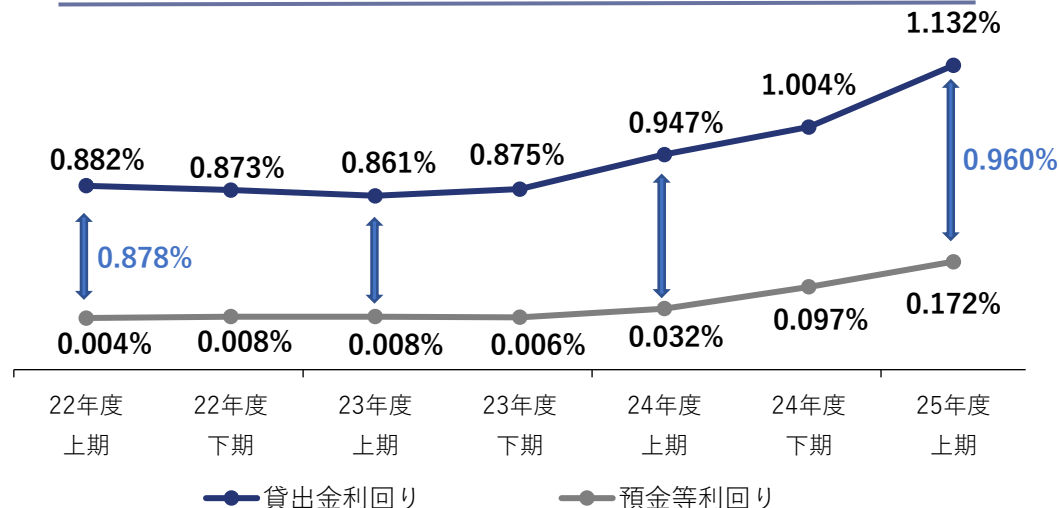
資金利益（億円）

[2行合算]



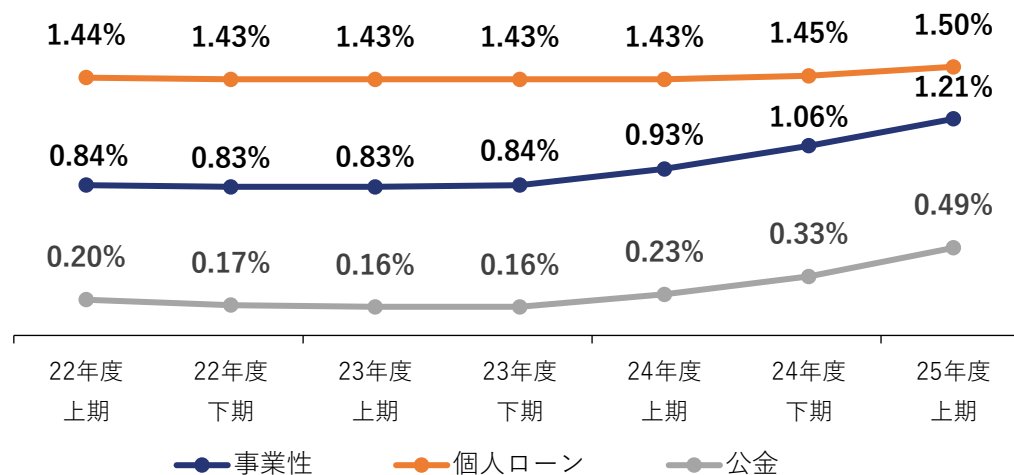
預金・貸出金 利回り推移

[2行合算]



	2行合算		北陸銀行		北海道銀行	
	25/9期	前年同期比	25/9期	前年同期比	25/9期	前年同期比
資金利益	670	121	380	80	289	40
うち貸出金利息	586	138	312	85	273	53
貸出金平残	103,238	9,003	58,415	6,979	44,822	2,024
利回り	1.13%	0.19%	1.06%	0.19%	1.21%	0.19%
うち有価証券利息	192	54	152	47	39	7
有価証券平残	22,495	4,173	12,958	2,293	9,537	1,879
利回り	1.70%	0.21%	2.35%	0.38%	0.83%	0.00%
うち預金利息 (△)	123	100	72	58	51	42
預金平残	142,882	2,359	80,742	1,424	62,140	934
利回り	0.17%	0.14%	0.17%	0.14%	0.16%	0.14%

<セグメント別貸出金利回り（円貨）>



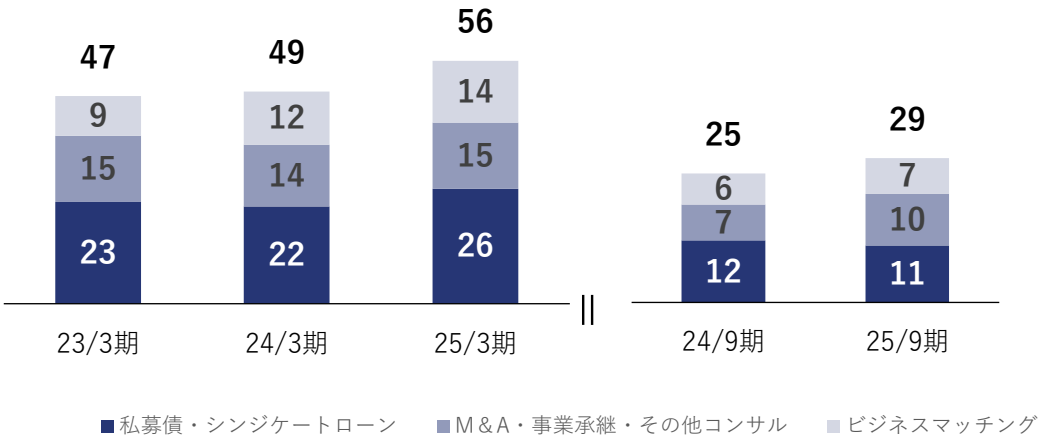
➤ グループ一体でコンサルティング機能の強化に取り組み、法人コンサルティング手数料を中心に増加。連結ベースの非金利利益は堅調に推移

非金利利益（億円）

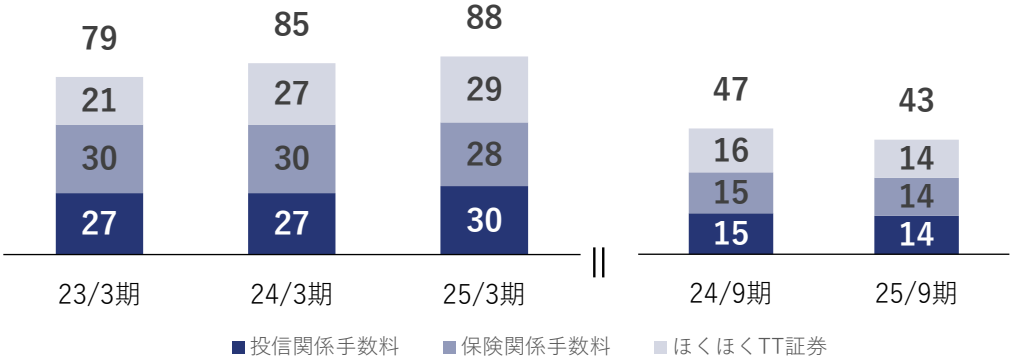
FG連結	25/9期	前年同期比	24/9期
非金利利益	152	1	151
2行合算 (①+②+③)	94	△ 3	97
役務取引等利益・・・①	95	△ 4	99
役務取引等収益	181	0	180
うち受入為替手数料	47	0	46
うち投信・保険関係手数料	28	△ 2	31
うち私募債・シンジケートローン	11	△ 0	12
うちM&A・事業承継・その他コンサル	-	△ 4	4
うちビジネスマッチング	7	1	6
役務取引等費用 (△)	86	4	81
うち支払為替手数料 (△)	5	0	4
うちローン保険料・保証料 (△)	65	2	63
特定取引利益・・・②	0	0	0
その他業務利益 (除く5勘定尻)・・・③	△ 1	0	△ 2
(主要子会社の状況)			
ほくほくコンサルティング	9	7	2
ほくほくTT証券	10	△ 2	12
北銀リース	5	0	4
北陸カード、道銀カード	24	0	23

※ほくほくコンサルティングは、2024年7月より営業開始

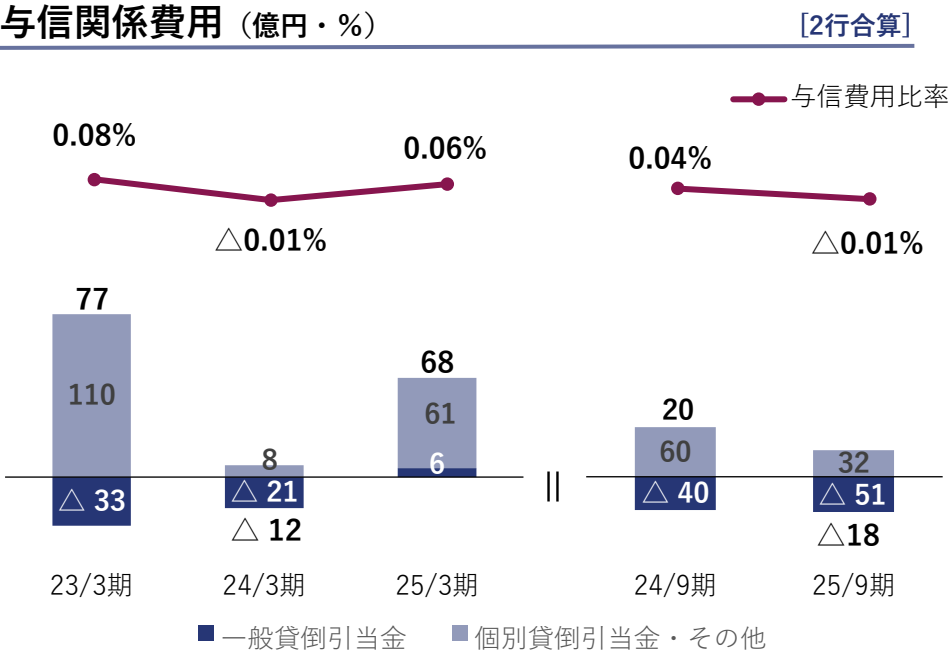
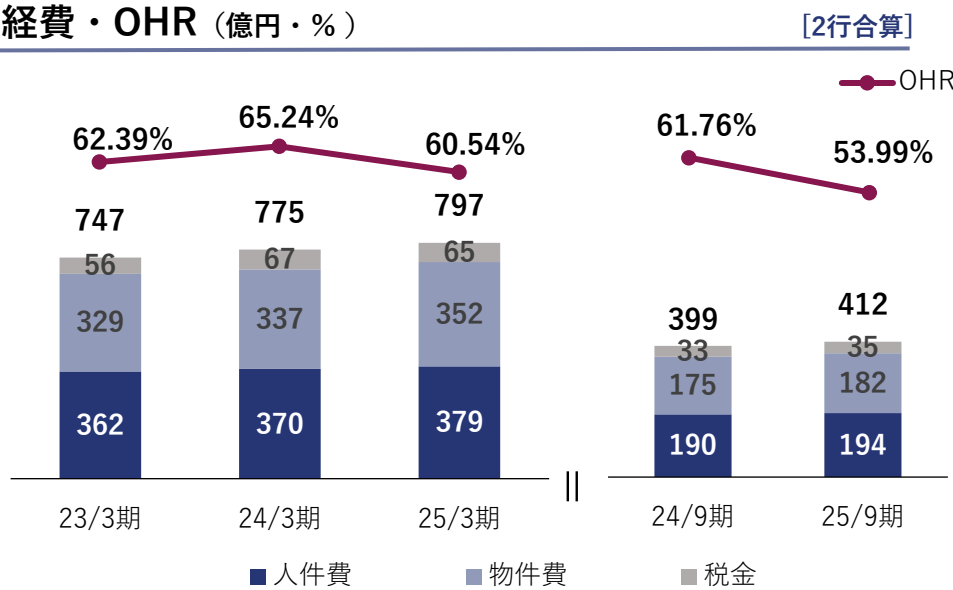
＜法人コンサルティング手数料（億円）＞ [2行合算+ほくほくコンサルティング]



＜個人コンサルティング手数料（億円）＞ [2行合算+ほくほくTT証券]



- 経費は企業価値向上のための人的投資やシステム投資により増加したが、トップラインの上昇によりOHRは改善
- 与信関係費用は引当率の低下などにより貸倒引当金が減少し、低水準で推移



経費内訳 (億円)

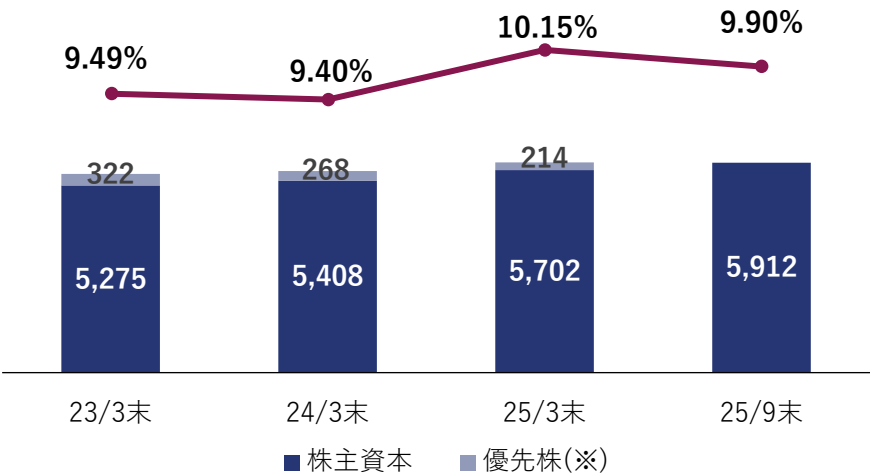
	2行合算					
	25/9期		北陸銀行		北海道銀行	
	前年同期比		前年同期比		前年同期比	
経費	412	13	218	7	194	5
人件費	194	4	105	2	88	2
物件費	182	6	94	3	88	3
税金	35	1	18	2	17	△ 0

与信関係費用内訳 (億円)

	2行合算					
	25/9期		北陸銀行		北海道銀行	
	前年同期比		前年同期比		前年同期比	
与信関係費用	△ 18	△ 38	△ 12	4	△ 5	△ 43
一般貸倒引当金繰入	△ 51	△ 10	△ 42	△ 18	△ 8	7
個別貸倒引当金繰入・その他	32	△ 27	30	23	2	△ 50

➤ 2025年4月に優先株式を全額取得したが、自己資本の積み上げにより自己資本比率は前年度末比0.25%低下の9.90%

連結自己資本・比率（億円・％）

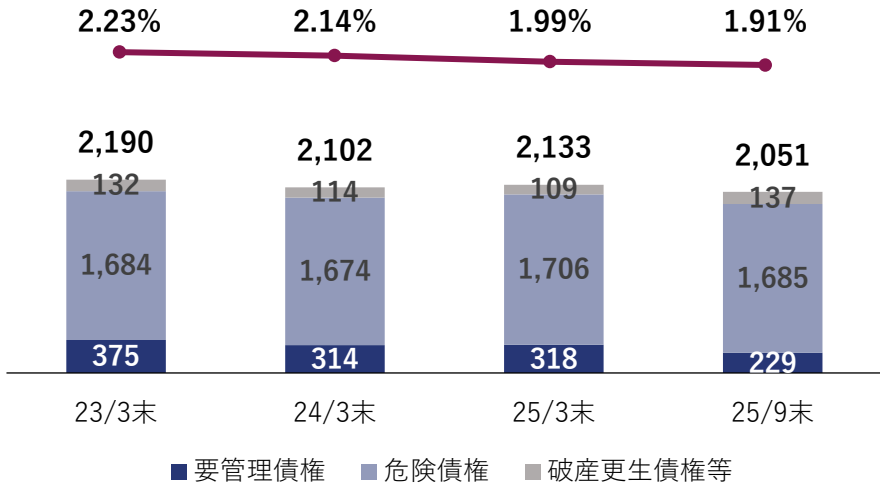


※ 2025年4月1日、第1回第5種優先株式を全額取得しております

	23/3末	24/3末	25/3末	25/9末
FG連結	9.49%	9.40%	10.15%	9.90%
自己資本	5,702	5,797	6,051	5,963
リスクアセット	60,044	61,630	59,597	60,200
北陸銀行	9.06%	9.12%	10.08%	10.07%
自己資本	3,205	3,345	3,514	3,622
リスクアセット	35,354	36,651	34,847	35,939
北海道銀行	8.99%	8.97%	9.37%	8.89%
自己資本	2,167	2,194	2,227	2,066
リスクアセット	24,102	24,460	23,773	23,241

金融再生法開示債権・比率（億円・％）

[2行合算]

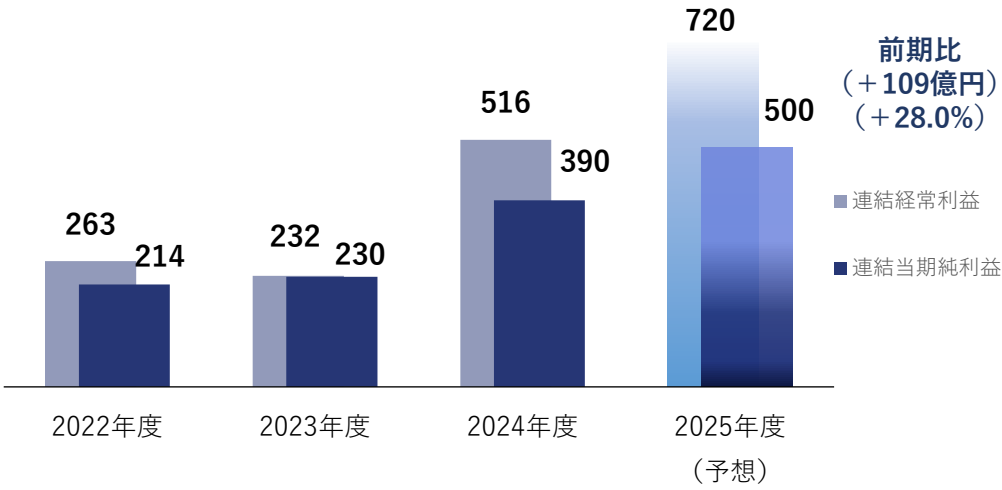


	23/3末	24/3末	25/3末	25/9末
北陸銀行	2.67%	2.57%	2.24%	2.09%
要管理債権	258	208	232	137
危険債権	1,067	1,076	1,051	1,052
破産更生債権等	89	78	61	92
合計	1,413	1,362	1,344	1,280
北海道銀行	1.72%	1.64%	1.67%	1.66%
要管理債権	117	106	86	92
危険債権	617	599	655	633
破産更生債権等	43	36	48	45
合計	777	740	789	771

➤ 貸出金の増強や有価証券ポートフォリオの改善によりコア業務粗利益が当初予想を上回る見込みであること、および与信関係費用が当初予想を下回る見込みであることから上方修正

2025年度 通期業績予想（億円）

連結			
	2025年度 期初予想	2025年度 業績予想	期初予想比
経常利益	600	720	120
当期純利益	410	500	90



2行合算				北陸銀行				北海道			
	2025年度 期初予想	2025年度 業績予想	期初予想比		2025年度 期初予想	2025年度 業績予想	期初予想比		2025年度 期初予想	2025年度 業績予想	期初予想比
コア業務粗利益	1,465	1,520	55	コア業務粗利益	865	890	25	コア業務粗利益	600	630	30
経費 (△)	850	850	0	経費 (△)	445	450	5	経費 (△)	405	400	△ 5
コア業務純益	615	670	55	コア業務純益	420	440	20	コア業務純益	195	230	35
与信関係費用 (△)	75	45	△ 30	与信関係費用 (△)	40	25	△ 15	与信関係費用 (△)	35	20	△ 15
経常利益	580	690	110	経常利益	415	470	55	経常利益	165	220	55
当期純利益	395	490	95	当期純利益	285	335	50	当期純利益	110	155	45

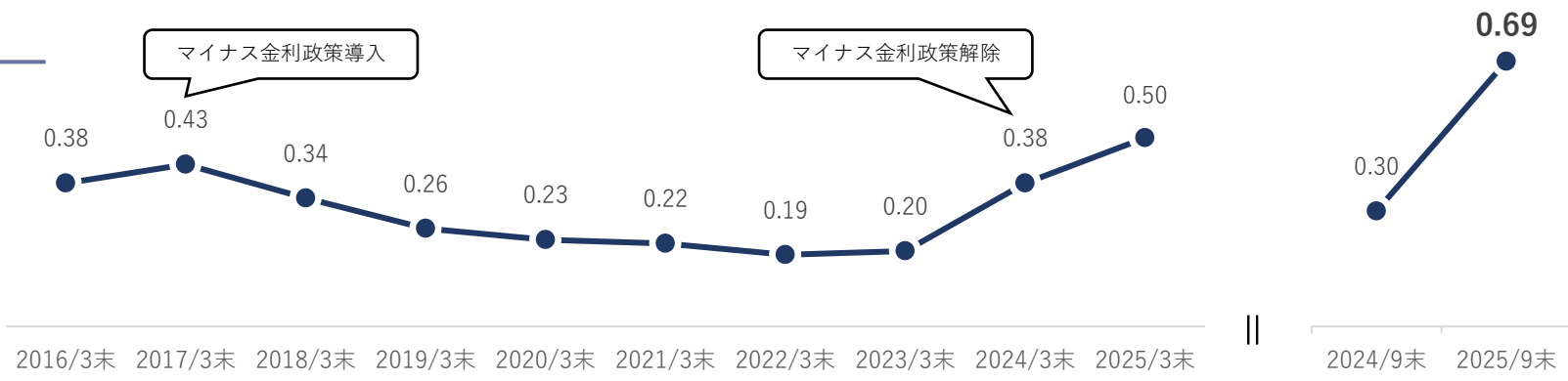
企業価値向上に向けた取り組み



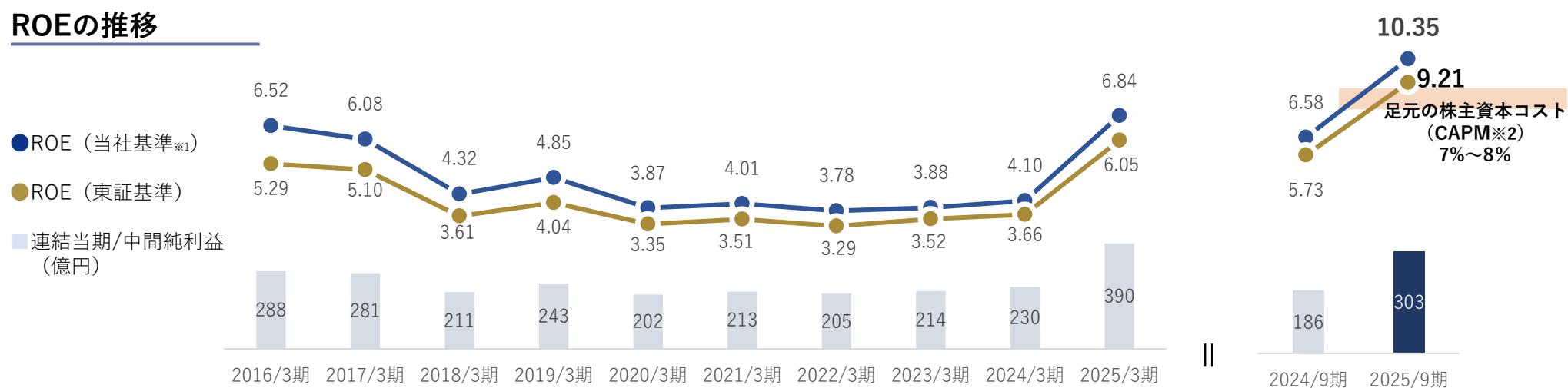
地域を超えて、
輝く未来を創る。

- 資金利益の増加を背景に、ROEは足元の株主資本コストを上回る水準に上昇。中間期実績だが、中期経営計画の目標である2027年度ROE8.0%を上回る実績
- ROEの上昇に伴ってPBRも上昇しているが、1.0倍まではまだ乖離あり
- 金利環境を追い風に、「預金量の着実な増加」と「貸出金の増加、利回りの改善」を通じ、資産規模を活かした収益力の強化を図る

PBRの推移



ROEの推移



※1 ROE(連結、株主資本ベース) = 連結当期純利益(優先株式配当控除後)/(期首株主資本(優先株式除く)+期末株主資本(優先株式除く))/2
 ※2 CAPM = 国債金利 + β × TOPIXリスクプレミアム ※当社基準で算定

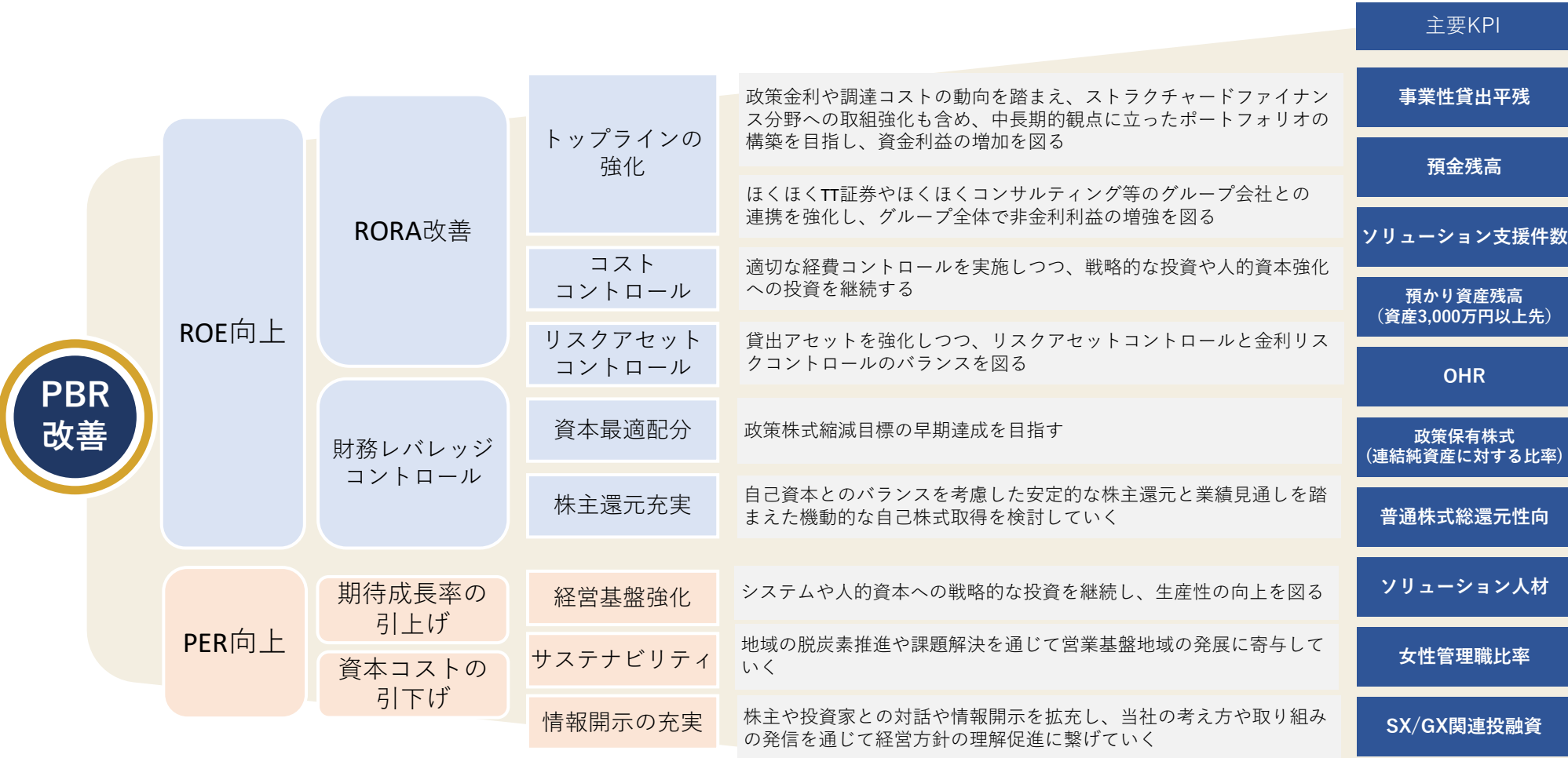
中期経営計画の戦略のエンジン

課題解決力の深化

経営基盤の強化

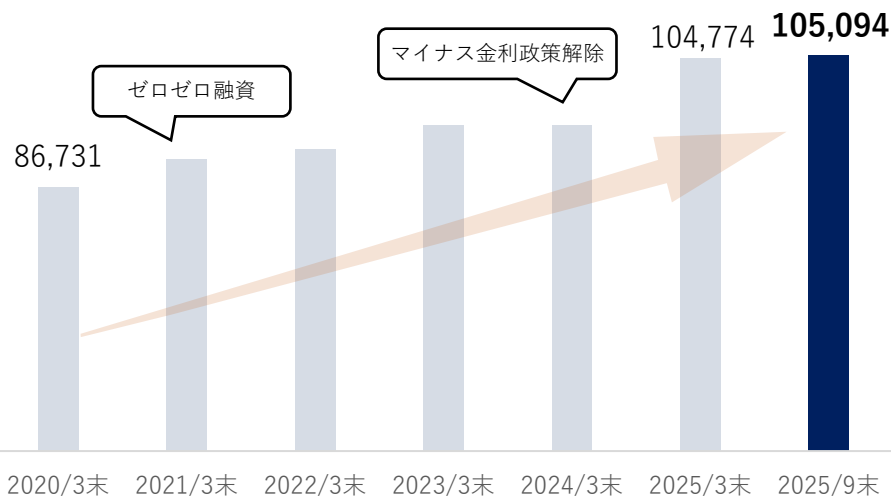
企業文化の定着

- 「課題解決力の深化」を通じたトップラインの向上とOHR目標の達成に向けたコストコントロールによって収益性を高め、適正な自己資本水準を踏まえた資本政策の実施によってROE向上を図る
- 期待成長率の向上に繋がる「経営基盤の強化」と「企業文化の定着」に取り組むとともに、情報開示の充実等に努め、資本コストの引き下げを図る

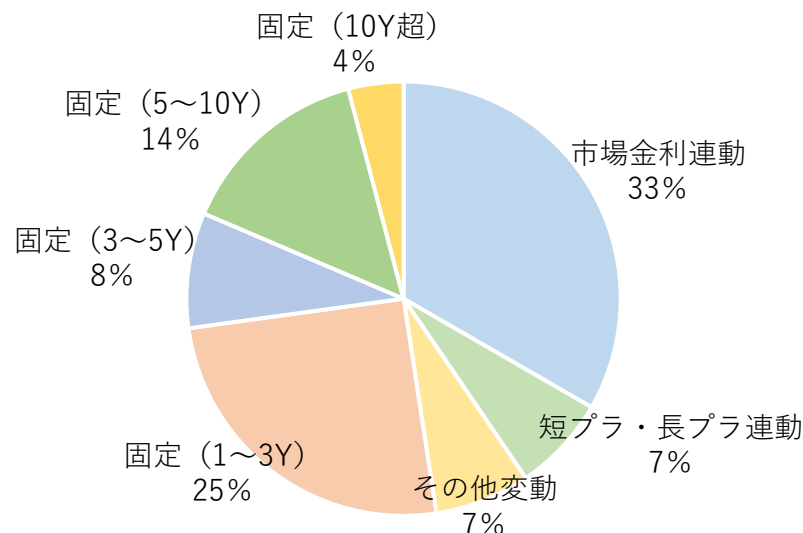


➤ 地域別取組方針に沿って残高の増強を図るとともに、利回りの改善によって資金利益の増加を目指す

貸出金の推移（億円）



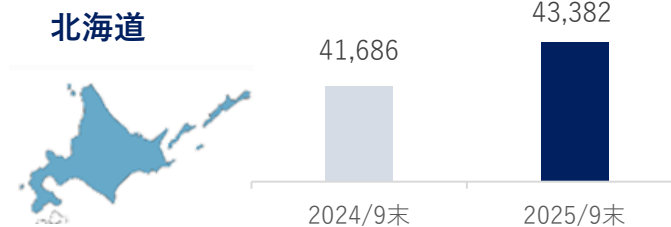
貸出金の金利別内訳



地域別取組方針・貸出金末残（億円）



- 営業店と本部が連携し適切なソリューション提案を実施（対面・非対面による接点強化）
- 店舗形態の見直しや事務効率化によってフロント人員の増強を図る



- サステナビリティリンクローンフレームワーク型やPIFを柱としたサステナブルファイナンスによる貸出増加を図る
- ほくほくコンサルティングとの連携強化によるM&A・事業承継支援を展開



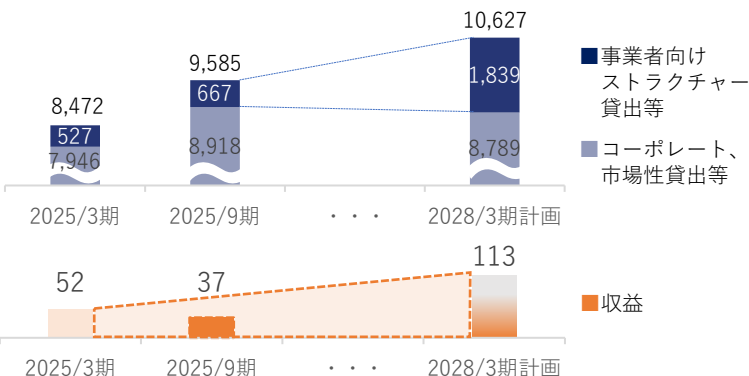
- ストラクチャードファイナンスの強化により東京・大阪・名古屋を中心に貸出増加を図る
- 富裕層の資産運用対策として不動産取得資金などの支援を展開
- 本部と営業店の連携強化による新規開拓

ストラクチャードファイナンスの強化

➤ FG一体での推進とリスク管理によって、高収益アセットの構築と収益拡大を目指す

残高（平残・億円）/収益（億円）

➤ 残高の積み増しを図り、収益増強を目指す



FG一体運営の実施

- 北海道でのGX関連投資に対応できるノウハウ・体制の構築
- FG一体での効率的な運営、高収益ポートフォリオの構築
- 人員の増加やキャリア採用の強化を通じて高度なファイナンススキルを持つ人材を育成するとともに、リスク部門の強化を図り、適切な管理体制を構築する



- FGベースでの
- ・ポジショニング確立
 - ・効率的な人員配置
 - ・ノウハウの積上げ
 - ・リスク管理

次世代半導体分野への取り組み

➤ 地域のポテンシャルを活かした価値向上に向け、次世代産業に対する支援を強化する

取組方針と狙い

当社グループの広域ネットワークを活かした半導体関連企業への**成長支援**と地元企業による半導体関連産業への**参入支援**の両輪で活動を深化させることで、融資や収益獲得を目指す

地域の価値向上 経済全体の活性化

- 工事や建設の受注、資材仕入れ等が地域のお客さまに波及
- 次世代半導体の製造・輸出により、地域の生産額（付加価値額）が増加
- 賃金上昇、定住・交流人口増加による個人消費の拡大

自社の価値向上 取引拡大

- 工場/インフラ整備にかかる建設工事
→設備/運転資金需要への対応
- 定住/交流人口の増加による不動産投資
→不動産関連融資需要への対応
- 地域企業の半導体関連産業への参入
→設備資金需要への対応、補助金コンサルティング

当社グループにおける半導体関連融資の状況

2023年2月～2025年9月末までの累計実績

単位:件/億円	サプライチェーン※1		まちづくり※2		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
貸出	223	688	652	789	875	1,477
うち2025年度上期分	44	95	180	229	234	324

※1：半導体関連融資：当社グループ定義

※2：まちづくり：半導体関連産業に付随して発生する不動産・アパートへの融資

Rapidus社の進出に伴い北海道で顕在化している効果

- **設備投資**：千歳市等でオフィスビルやマンション、ホテルの建替ラッシュが発生。道路等のインフラ整備も進捗。
- **企業進出**：2024年12月末までに半導体関連企業37社が拠点設立を決定。
- **雇用**：Rapidus社は2025年4月末時点で約750人の従業員を雇用（月給は全国平均より3万円以上高い水準）、2027年度までに1,000名規模を雇用予定。

（出典：経済産業省）

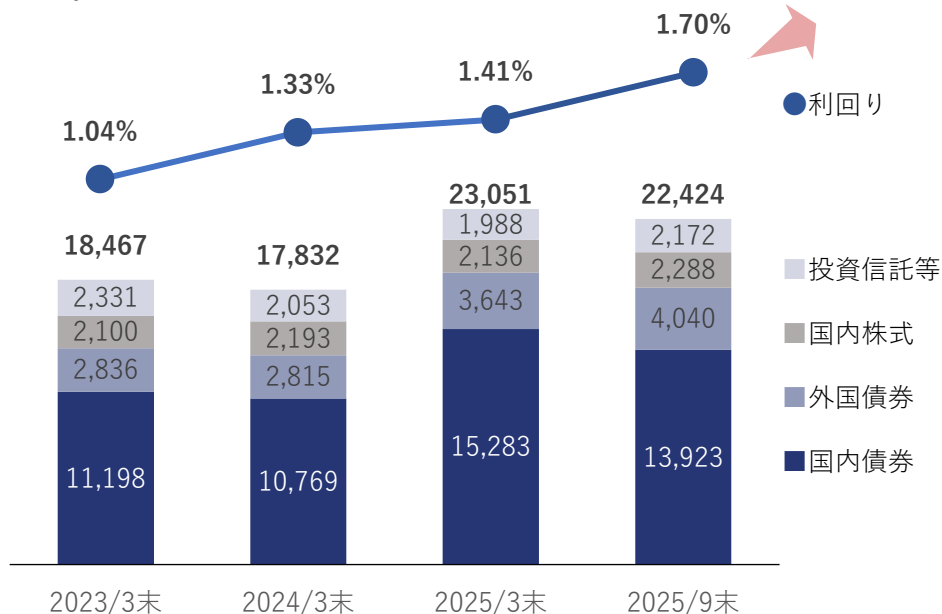
➤ FG一体で適切なリスク管理を実施しながら安定的なインカム収益を確保するポートフォリオの構築を目指す

運用方針

- 日銀の追加利上げを見据え、金利リスク量やデュレーションに配慮しリスク管理を図りながら運用する。国内金利の上昇を見極めながら、中・長期ゾーンへの投資も検討していく
- FG一体での戦略策定とリスク管理を通じて運用の高度化を図り、安定的な収益を確保するポートフォリオを構築する

残高・利回り推移 (億円、%)

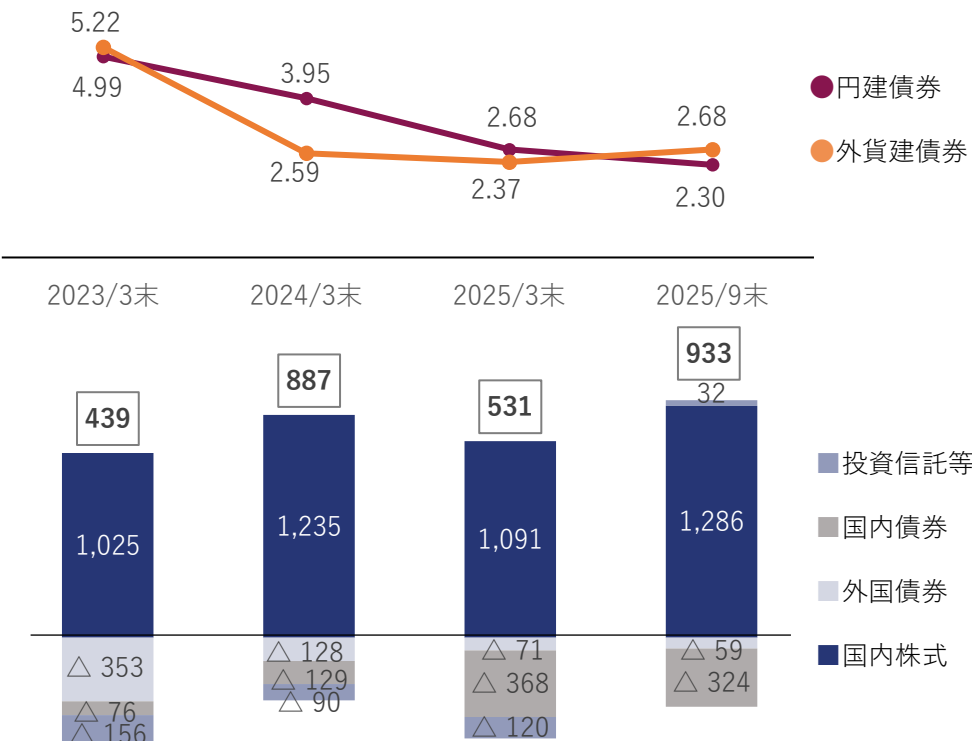
- 過年度からの低利回りの円債・外債の売却により利回りは着実に改善。安定的な利息収入の確保を目指す



適切なリスク管理の実施

上段：債券デュレーション (繰延ヘッジ考慮後) (年)

下段：評価損益 (繰延ヘッジ損益考慮後) (億円)

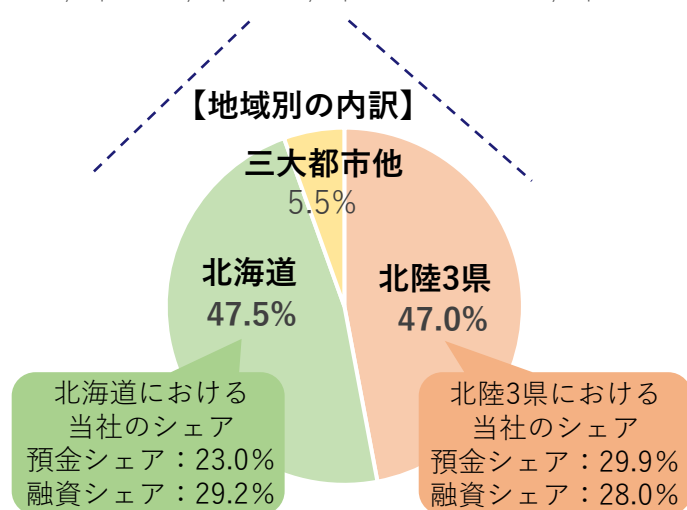
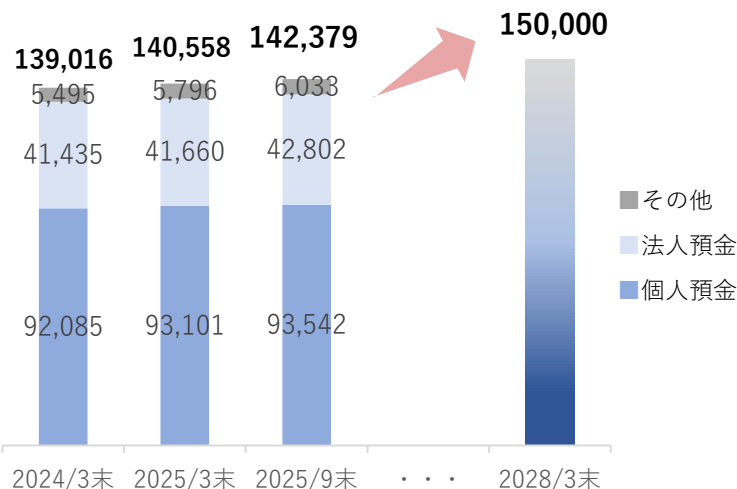


金利上昇時の有価証券評価損益への影響

金利上昇時の有価証券評価損益への影響	円債		外債		米ドル/円 換算レート
	2025年9月末基準	▲318億円	2025年9月末基準	▲104億円	
2024年9月末基準	▲427億円	▲71億円	148.88円		
			142.73円		

➤ リアルとWEBの双方で利便性の向上を追求するとともに各種施策を展開し、金利のある世界での預金獲得を目指す

預金・NCD残高（億円）



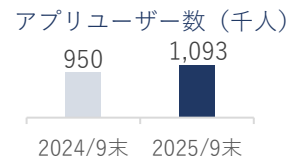
※シェアは2025/3末、日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金」、信金中金 地域・中小企業研究所「信金中金月報」等より当社作成

利便性の向上

WEBチャネル

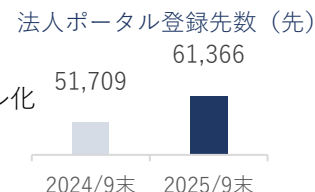
個人向けアプリ

- 金融、非金融機能の拡充
- セキュリティの向上



法人ポータル

- 決済機能の利便性向上
- 各種サービスのデジタル化



リアルチャネル

ATM網の拡充

- 金融インフラを維持すべくATM網を拡充
- 北海道のコンビニエンスストア「セイコーマート」と共同し「道民のATM」を設置



基盤取引の拡充

個人向け

世帯メイン取引の強化

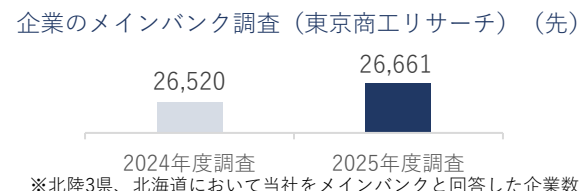
- 給与や年金の受取口座としての利用に加え、住宅ローンを推進し家計のメイン化を図る



法人向け

メイン化に向けた工作

- リレーションを強化し、伴走支援できる体制と関係性を確立することでメイン化に繋げ、決済機能等の囲い込みを図る



商品ラインナップの充実

戦略商品の展開

- 北陸銀行にて2025年7月から年金定期等の取扱を開始

新規預入約 **600** 億円（2025/7/1～2025/11/14）

キャンペーン定期の実施

- 2025年11月、北海道銀行にて「北海道日本ハムファイターズ定期預金キャンペーン」を実施

新規預入約 **207** 億円（2025/11/4～2025/11/14）

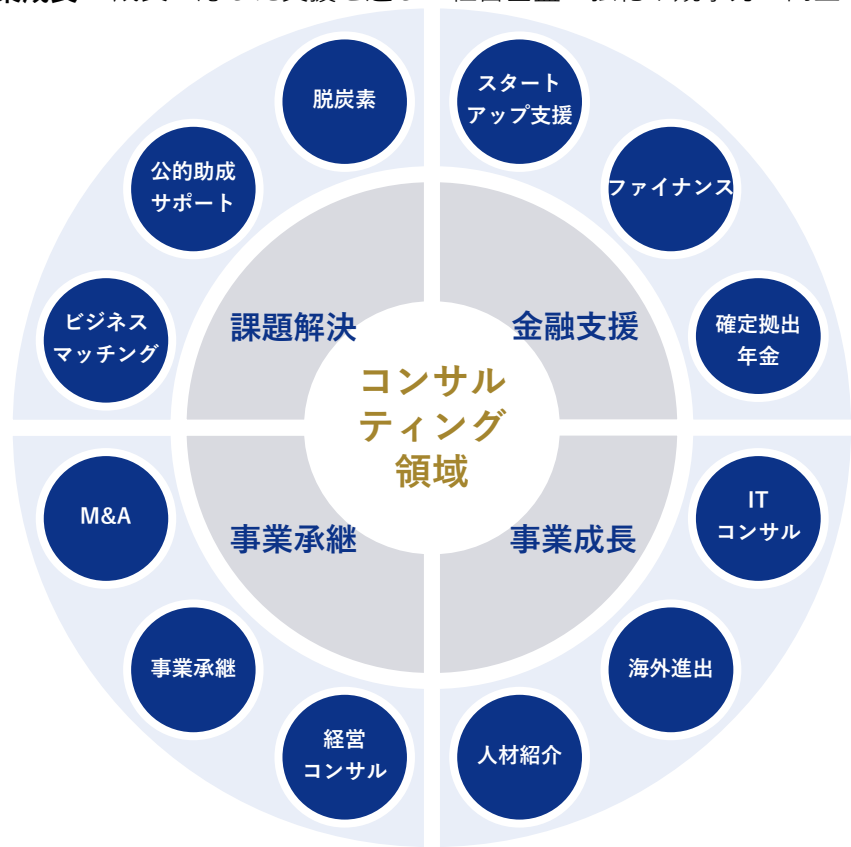
- 法人コンサルティング収益は堅調に推移
- 多様化・高度化するお客さまのニーズに対し、グループ一丸となった多様なコンサルティングを提供

課題解決：中長期的な信頼関係を構築し、ニーズに合わせた実効的な解決策を提供

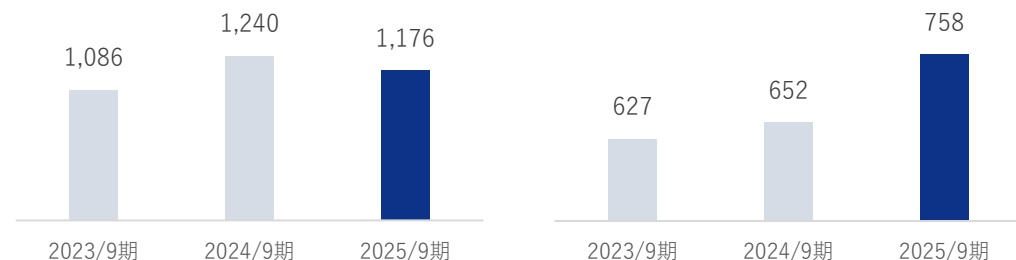
金融支援：柔軟な金融サービスを提供し事業運営や挑戦を支援

事業承継：スムーズな承継を支援し企業の持続的な成長に貢献
承継後も多面的な支援を通じて長期的な関係性の深化を目指す

事業成長：成長に応じた支援を通じて経営基盤の強化や競争力の向上を後押し



法人ファイナンス関連収益（百万円） ビジネスマッチング収益（百万円）

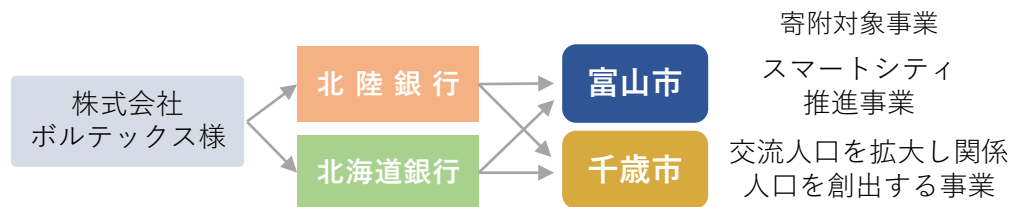


- 大型の設備投資や不動産取得、M&A等の多様なニーズに対応すべくファイナンス商品の提案力を強化
- 広域ネットワークを活用し、商圏拡大に寄与する取り組みを拡大

TOPICS 地域活性化に向けたほくほく連携事例～企業版ふるさと納税

- 2023年、北陸銀行と北海道銀行それぞれで企業版ふるさと納税寄附企業開拓支援サービスの提供を開始
- ほくほく連携により、寄附企業の募集範囲を両行の取引先へ拡大

2025年9月、(株)ボルテックス様より富山市および千歳市へ寄附を実行

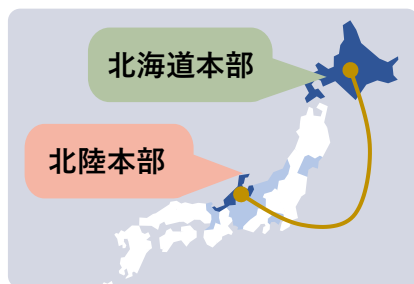


多様な取り組みを通じて、地域の活性化に繋げていく

- M&A、事業承継、経営コンサルティングを軸に展開し2024年7月の営業開始から1年が経過
- 当社グループの法人向けソリューションの中核としてグループシナジーを追求し、更なる収益の拡大を目指す

取組方針

- 両行の共通エリアである北海道における情報共有と戦略的なリソースの投下を行い、ノウハウ共有を通じてシナジーの拡大を図る



【北海道/北陸3県のM&A件数】

2024年以降の公表M&A件数
(左:譲渡企業数/右:譲受企業数)

北海道	160件 (103件/57件)
北陸3県	131件 (66件/65件)

出所:レコフデータを基にほくほくコンサルティングにて加工

- 案件受付数の増加と専門人材の確保を目的に、キャリア採用も含めて3年間で10名以上の増員を図る

【人員推移・計画(名)】

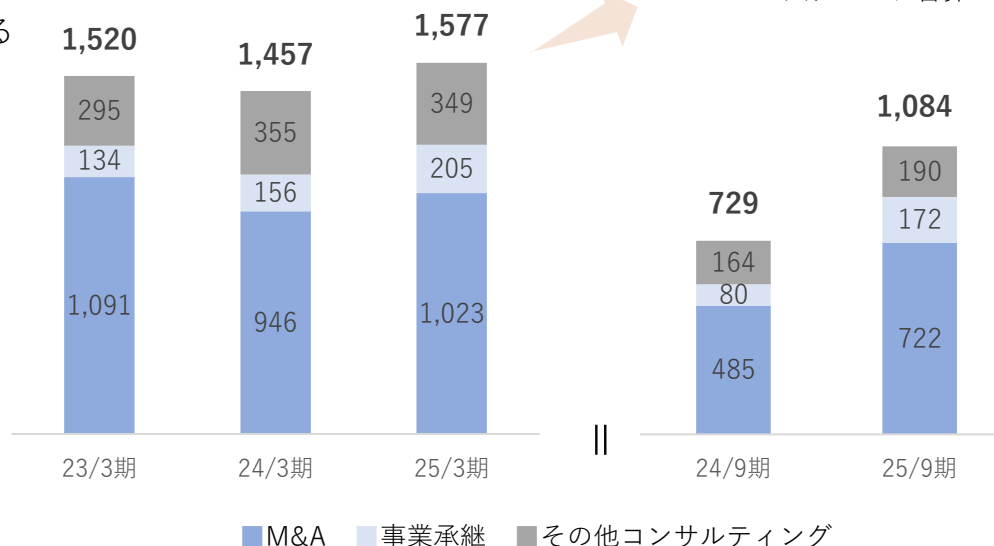


- 両子銀行、ほくほくTT証券の富裕層担当部署との連携を強化し、グループ内でニーズに応えるソリューションを提供する

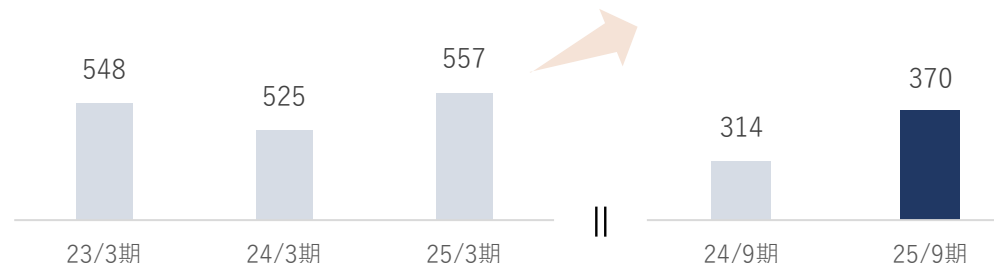


M&A・事業承継・その他コンサルティング手数料(百万円)

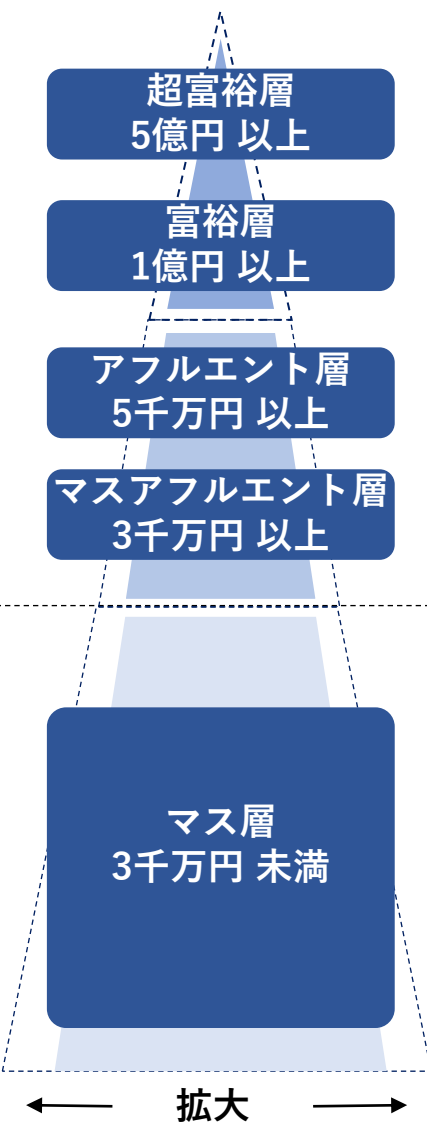
※グループ合算



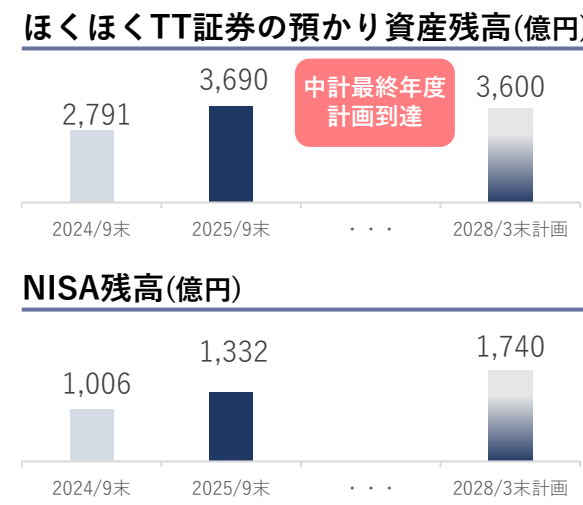
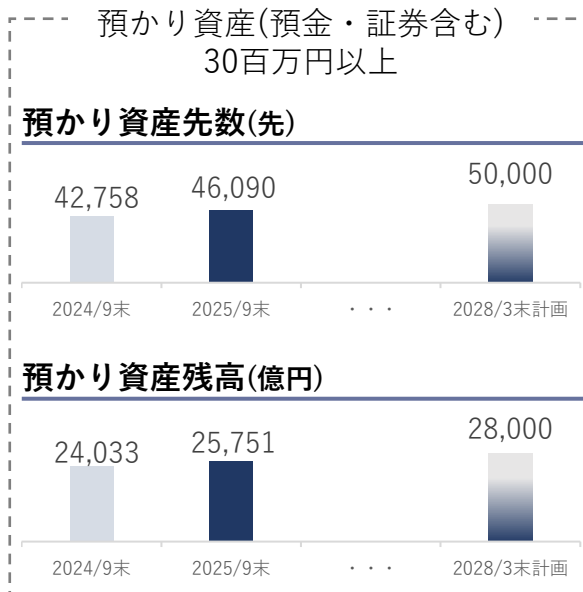
M&A成約件数・事業承継アレンジ件数・経営コンサル成約件数(件)



- 足元の相場を背景に預かり資産残高は増加。グループ一体となってニーズに即したサービスを提供し更なる増強を図る
- お客さまの資産を俯瞰し、法人担当⇔個人担当⇔グループ会社が連携して高度なソリューションをワンストップで提供

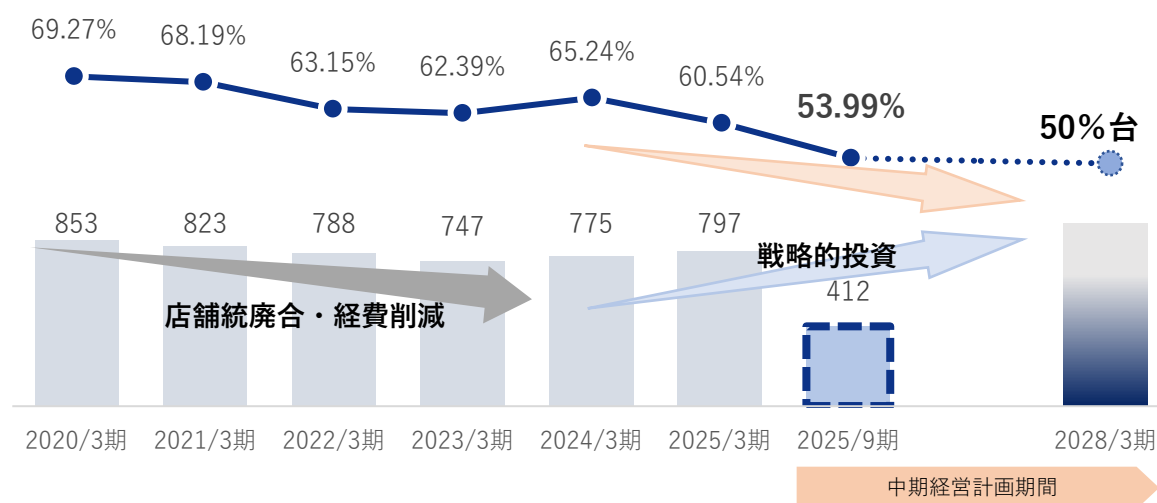


チャネル	アプローチ・施策
 対面  グループ連携	高度なコンサルティング 預金増強を伴う顧客セグメントアップ - 実態把握と接点強化を通じた預かり資産取引の拡大 - 法人担当者⇔個人担当者⇔証券担当者の連携による全資産アプローチとポートフォリオ提案の強化 - 資産承継ニーズに対して信託や不動産活用も含めた高度なソリューションをワンストップで提供 - ほくほくTT証券との「紹介型仲介業務※」を導入し、証券取引を活性化（2025/12開始予定） ※銀行員による一部証券商品の勧誘
 アプリ・WEB  コンタクトセンター	デジタルチャネルの拡大による顧客接点の強化 - 銀行アプリへのロボアド機能、保有データに基づくポートフォリオ提案機能の追加（2026/3実装予定） - 給与受取や住宅ローン取引等の日常取引を起点に若年層とのリレーションを構築、マーケティングオートメーションツール等も活用し長期的な資産形成を支援 - 非対面コンタクトセンターの活用による顧客接点の強化とアフターフォローの充実化

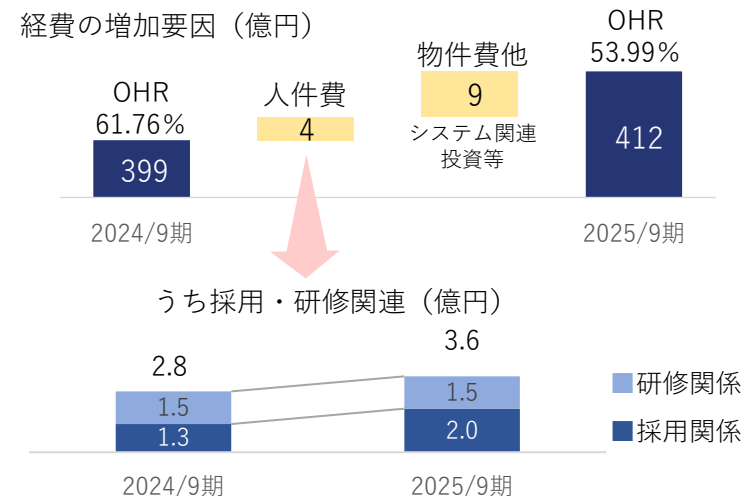


➤ 戦略的な投資によってトップラインを引き上げ、引き続きOHRの低減を図る

経費・OHR（億円・％） [2行合算]



人的資本強化に向けた投資の実施 [2行合算]

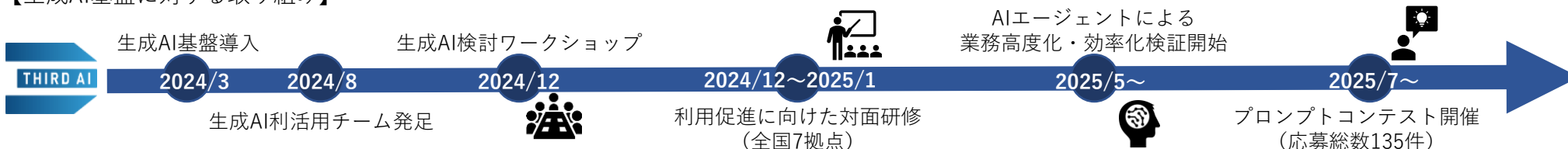


課題解決の深化や価値創造に繋げるべく、
戦略分野の人材を量と質の両面で強化していく

生産性向上に向けた取り組み～生成AI

➤ AI技術による効率化と高度化を通じて業務を革新し、収益力の向上を実現する

【生成AI基盤に対する取り組み】

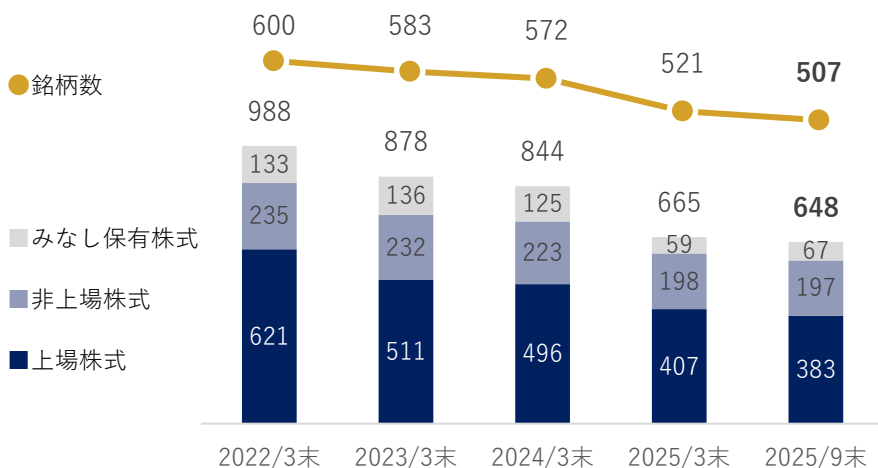


検討を進めている
生成AI案件

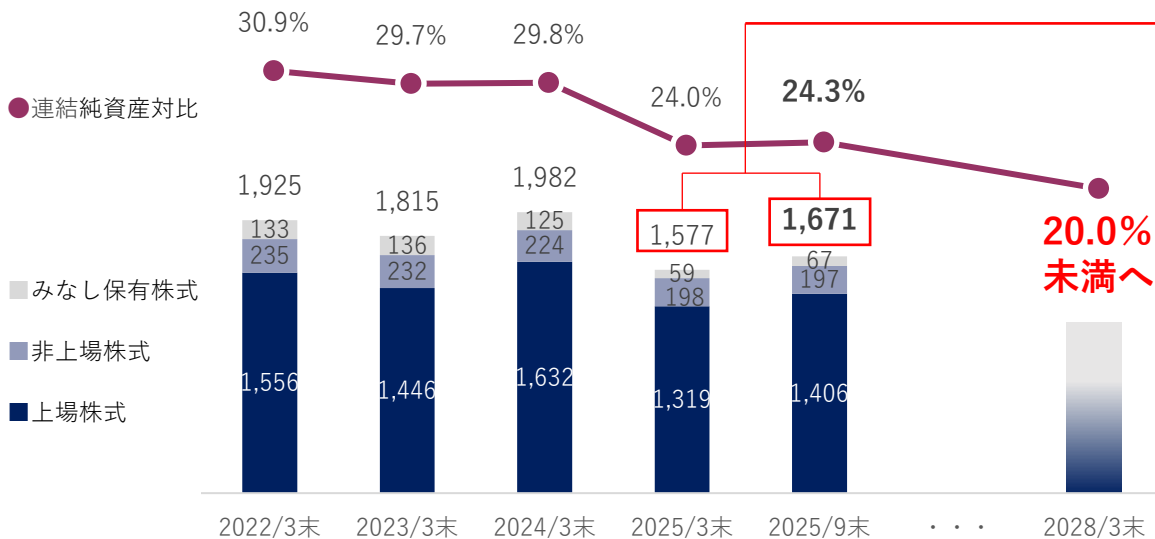
融資業務：融資稟回議審査AI、融資協議書作成AI
渉外業務：渉外支援AI、提案資料の一元化ツール
本部業務：コンタクトセンターにおける活用

～ 融資審査業務の効率化・高度化、融資案件組成の効率化を図る
 ～ 渉外業務の効率化・高度化、提案支援、育成補助
 ～ 事務負担の削減、オムニチャネルによる顧客体験の向上

簿価残高/銘柄数（億円/社）



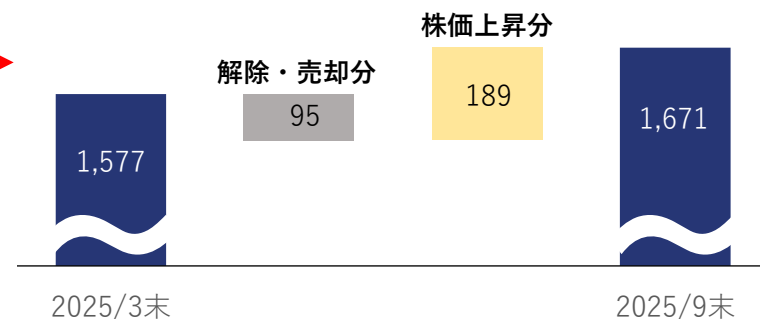
時価残高/連結純資産対比（億円/%）



縮減に向けた取組状況等

- 着実な縮減に向けて全先と対話を実施
- 2025年度上期は、政策解除・売却が一定程度進んだものの、株価の上昇もあり連結純資産対比の比率は上昇
- 純投資株式として保有する銘柄は、売買の意思決定を投資有価証券の所管部署に移管し管理のうえ機動的に売却
- 引き続き対話を重ね、連結純資産対比20%未達を目指して取り組んでいく

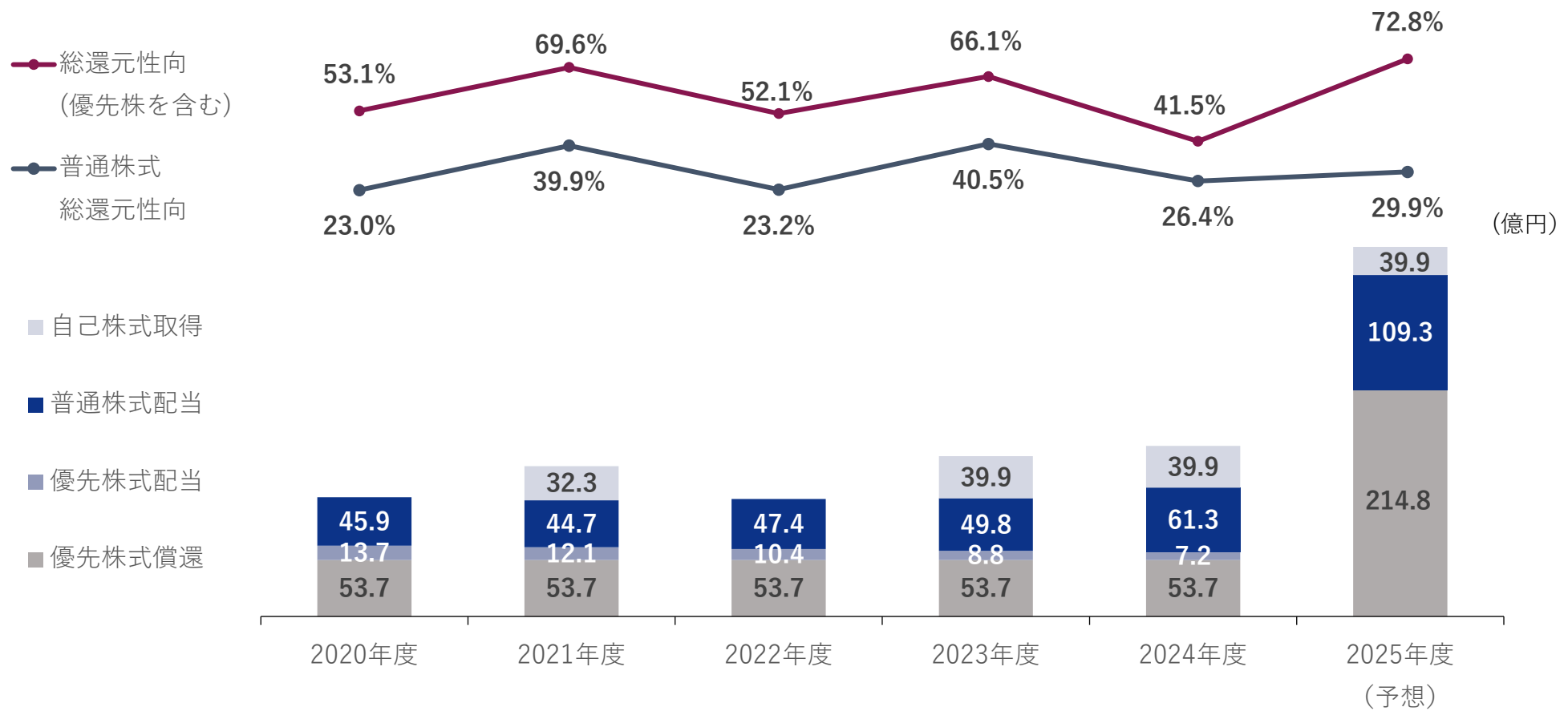
時価残高の上昇要因（億円）



縮減目標

連結純資産対比 **20%** 未達
※2028/3末まで（中計最終年度まで）

➤ 業績予想の修正を踏まえ、株式配当を期初予想の年間70円（中間35円、期末35円）から90円（中間45円、期末45円）に増配。業績予想ベースにて普通株式総還元性向30%程度を見込む



普通株式配当	35円	35円	37円	40円	50円	90円
	—	—	—	—	(中間22.5円)	(中間45円)
	(期末35円)	(期末35円)	(期末37円)	(期末40円)	(期末27.5円)	(期末45円)
自己株式取得	—	32億円	—	40億円	40億円	40億円

経営基盤の強化



地域を超えて、
輝く未来を創る。

【人的資本経営取組方針】

地域・取引先をつなぎ
価値創造の原動力となる人づくり

【人材育成および社内環境整備に関する方針】

お客さまとともに価値創造の好循環を生み出し、地域の持続的な成長に貢献できる人材の育成及び
多様な人材が働きがいを感じながら、自身の価値向上に自律的に取り組んでいける環境の整備を進める

具体的なアクション	人材ポートフォリオ構築	人材育成	採用強化
	全員活躍の推進	挑戦する風土の醸成	働きやすい環境整備

経営戦略と連動した人材ポートフォリオの構築

- 課題解決力の深化や価値創造に繋げるべく、戦略分野の人員割合を50%以上に引き上げる方針
- 目指すポートフォリオの実現に向け、①総人員の維持、②業務改革と人材の再配置、③戦略分野の増強、の3つの側面から施策を展開

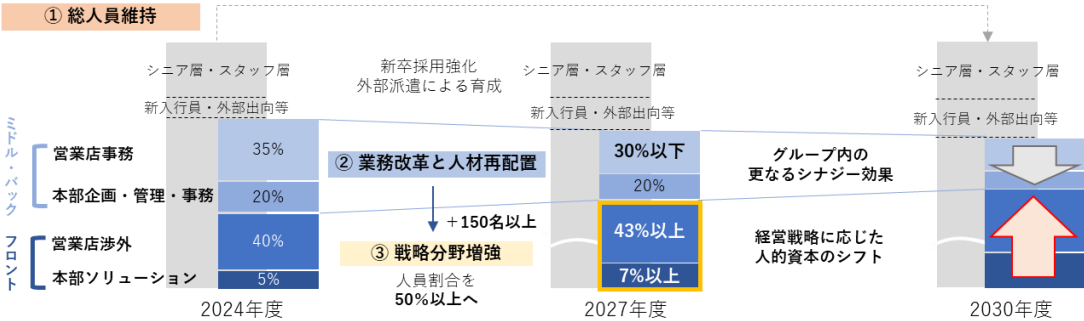
ソリューション人材の創出

- コンサルティング、SX、DXの各分野で一定の資格要件と業務経験を満たす人材を「ソリューション人材」と定義
- 各種資格の取得を支援すべくセミナーや報奨金制度の充実を図り、挑戦を後押しするための体制を拡充

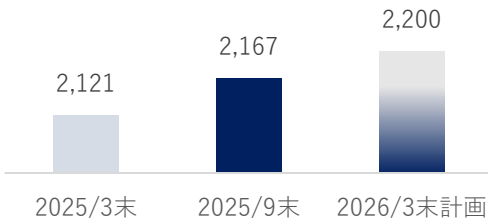
キャリア採用の高度化

- 新卒採用に加え、各種戦略を支える人材としてキャリア採用も強化
- 金融業界経験者のみならず、多様なバックグラウンドを持つ人材の採用を通じて組織の強化や活性化を図る

■ 人材ポートフォリオイメージ



■ ソリューション人材 (名)



■ セミナー・外部派遣の例

- 中小企業診断士セミナー
- FP1級セミナー、CFPトレーニー
- 国内MBA通学
- 国内研修派遣 (SX、DX、コンサル等)
- 海外研修派遣 (当社G海外拠点等)

■ 新卒採用者数 (名) ※グループ全体



■ キャリア採用者数 (名) ※グループ全体



【人的資本経営取組方針】

地域・取引先をつなぎ
価値創造の原動力となる人づくり

【人材育成および社内環境整備に関する方針】

お客さまとともに価値創造の好循環を生み出し、地域の持続的な成長に貢献できる人材の育成及び多様な人材が働きがいを感じながら、自身の価値向上に自律的に取り組んでいける環境の整備を進める

具体的なアクション

人材ポートフォリオ構築

全員活躍の推進

人材育成

挑戦する風土の醸成

採用強化

働きやすい環境整備

全員活躍アクションプランの策定

- ダイバーシティの推進を図るべく女性のキャリア開発や各種セミナー等の拡充を実施
- 若手・女性・シニアなど全職員層の活躍に向け、FG一体での取り組みを一層加速させるべく、アクションプランを策定

■ 全員活躍アクションプラン

アンコンシャスバイアス研修

役員メンター制度

女性管理職向け研修新設

ほくほくCouncil

ダイバーシティフォーラム

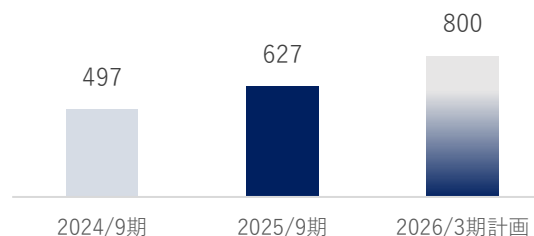


女性管理職向け研修の様子

自律的なキャリア形成のサポート

- 職員一人ひとりが自らが挑戦できる機会を提供することで幅広いキャリアを実現できる環境を整備
- 職員の挑戦を後押しすべく、「1on1ミーティング」や「キャリアアドバイザー」等のサポート体制を拡充

■ 公募形式応募者数（名）



■ 女性管理職者数／比率（名／％）



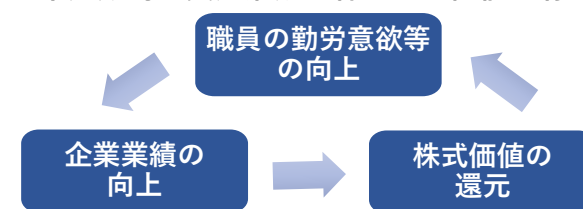
エンゲージメント・ウェルビーイングの向上

- 職員持株会の加入者を対象に10万円相当の譲渡制限付株式（RS）の付与を行い、グループ職員のファイナンシャルウェルネスの向上に取り組み
- 結果、持株会加入率は8割超に上昇

■ 持株会加入者数（名）



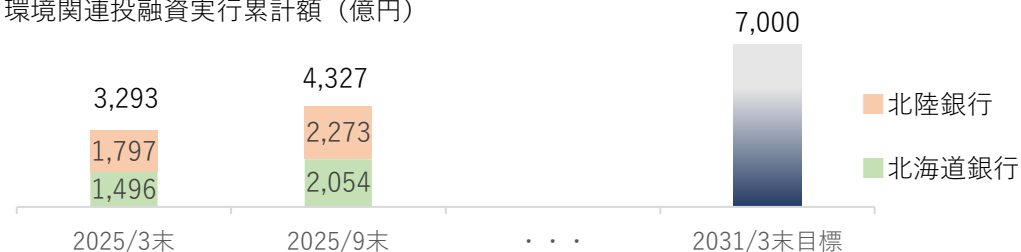
中長期的な資産形成＋株主との価値共有



➤ SX/GXを戦略上の中核と位置づけ、地域・取引先をリードする

地域の価値向上

環境関連投融资実行累計額（億円）



- 2025年8月、2024年度より取扱を開始した「<ほくほく>カーボンオフセット型私募債」の寄付先に富山県、福井県、北海道に加え新たに石川県を追加

<ほくほく>カーボンオフセット型私募債

当社グループのお取引先が各地域におけるGHG排出量の削減や、脱炭素分野での資金循環促進に貢献できる商品。2025年5月までに累計151t-CO₂のカーボンオフセットおよび610万円の寄付を実施

取引先の価値向上

SX/GX関連ソリューション収益額（百万円）



- 2025年5月、北陸電力株式会社と連携し、読売新聞横浜工場へオフサイトPPAにより再エネを供給するための基本合意書を締結し、GHG排出量削減を支援
- 2025年8月、北海道車両運送株式会社のサステナビリティ経営のPR支援としてStory Design House 株式会社と連携し、サステナブルムービーの制作を支援

自社の価値向上

GHG排出量（Scope1、2）（t-CO₂） ※年度計測



- 2025年6月、地方銀行で初めてとなるバーチャルPPAの導入を実施
- 2025年9月、建設中の当社本社ビルが延床面積1万㎡以上の事務所ビルとして北陸初となる「令和7年度サステナブル建築物等先導事業（省CO₂先導型）」に採択



地域・自社のSX/GXを実践する人材の高度化

SX/GX人材（コア・ミドル）（名）



- SX/GXの推進に向け、研修および資格取得の体制整備を強化
- 当社の取り組みが評価され、2025年3月、経済産業省が作成する「GX関連企業における人材確保に関する取組事例集」に金融業として唯一、取組事例として掲載



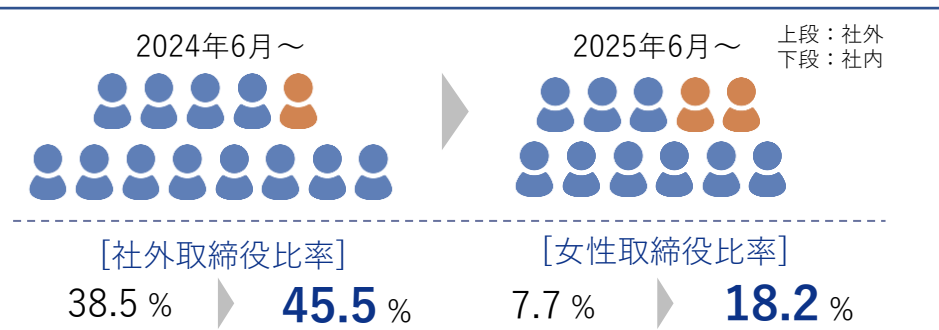
➤ 取締役会の構成変更や役員報酬制度の整備などを通じてガバナンス改革を進める

取締役会の構成

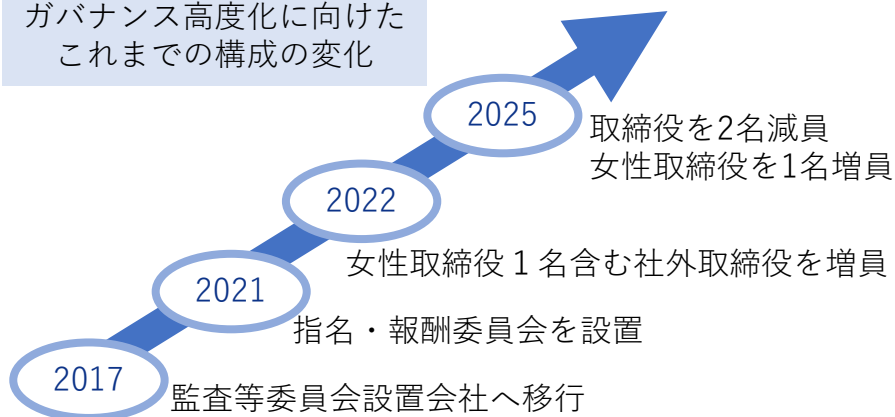
- 取締役（監査等委員である取締役を除く）の2名減員
- 女性取締役1名増員

[目的]

- より一層、迅速かつ的確な意思決定を行う
- より多様な知見・専門性を備えたバランスの取れた構成とし、建設的な議論ができる体制を整える



ガバナンス高度化に向けたこれまでの構成の変化



業績連動報酬制度の導入（2025年6月20日改定）

- 取締役の報酬と会社の業績との連動性をより明確にする

[目的]

- 対象取締役に当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えることで、経営陣と株主との一層の価値共有を進める

[役員報酬の変更内容]

基本報酬

基本報酬



株式報酬
[ストック・オプション]

業績連動賞与

株式報酬
[業績連動型RS]

※RS：譲渡制限付株式

業績指標

業績連動賞与

連結当期純利益
2行合算コア業務純益

株式報酬[業績連動型RS]

財務指標（連結ROE）
株式指標（TSR（株主総利回り））
非財務指標（GX関連投融资額、
女性管理職比率）

※監査等委員である取締役および社外取締役を除く

※当社、北陸銀行、北海道銀行の取締役、執行役員も同様の制度を導入

- グループブランドを社内・社外の両面から育み、グループとしての持続的成長と企業価値向上を実現する

パーパス

地域を超えて、輝く未来を創る。

あなたとこのまちの嬉しいが、私たちの一番。

インナーブランディング

パーパスを体現し、
グループ一体で新たな価値創造に挑む

- フラットで風通しのよい組織文化を定着させ、前向きな発想とスピード・質の高い実行力を育成
- 全役職員が枠に捉われない発想で社会課題の解決と新たな価値創出に貢献

〈主な取り組み（2025年度）〉

クロス座談会 全42回／約450人参加

役員とグループ各社・各部門から集まった職員が垣根を超えて意見を交わす「クロス座談会」を全社的に展開。経営層と現場職員による双方向での対話に加え、組織を横断した交流を通じて多様な視点の共有と相互理解の促進を図る。



アウターブランディング

「日本を、ほくほくさせよう。」のフレーズとともに、
ほくほくFGのブランド発信を強化

- 当社ブランドの認知拡大を目的に、社名とパーパスに掛けたメッセージ「日本を、ほくほくさせよう。」を、若さと躍動感あふれるクリエイティブで発信
- テレビCMやデジタル広告など、多様なチャンネルで広域に展開

〈主な広告媒体（2025年度）〉

- ・テレビ広告
- ・YouTube広告
- ・コーポレートサイト
- ・店頭ポスター／サイネージ
- ・屋外広告



参考資料



地域を超えて、
輝く未来を創る。

				(億円)
	業績予想 中間期	2025年度		2024年度
		中間期	前年同期比	中間期
コア業務粗利益	【430】	446	71	374
資金利益		380	80	300
うち貸出金利息		312	85	226
うち有価証券利息		152	47	105
役務取引等利益		60	△ 6	66
その他（国債等債券損益除く）		5	△ 2	7
経費（△）	【225】	218	7	210
（参考）OHR		48.95%	△7.24%	56.19%
コア業務純益	【205】	227	63	164
国債等債券損益		△ 45	△ 24	△ 20
実質業務純益		182	38	143
与信関係費用（△）	【5】	△ 12	4	△ 17
株式等損益		61	33	28
経常利益	【220】	262	68	193
特別損益		△ 0	3	△ 4
法人税等（△）		64	21	43
中間純利益	【150】	196	50	146
ROE		9.41%	2.16%	7.25%

業績ハイライト

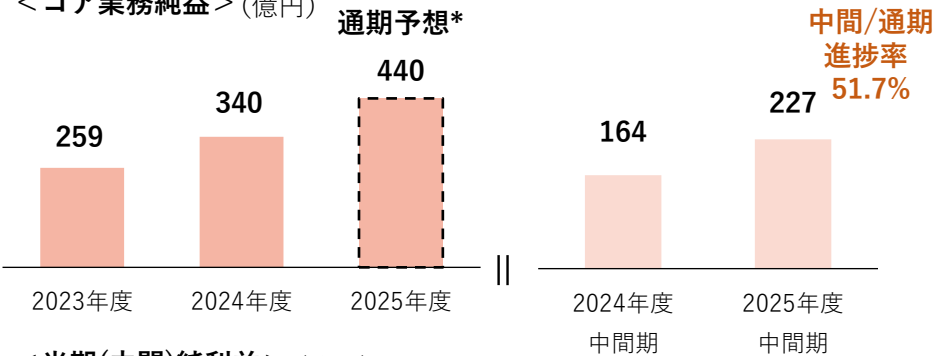
コア業務純益 227億円（前年同期比＋63億円）

貸出金利息や有価証券利息など資金利益が改善したことを主因に前年同期比63億円増加。

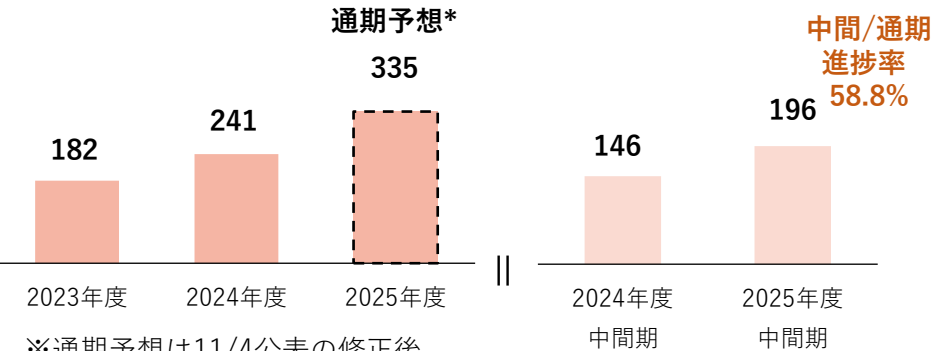
中間純利益 196億円（前年同期比＋50億円）

コア業務純益の増加に加え、株式等損益の増加などにより、前年同期比50億円増加。

<コア業務純益>（億円）



<当期(中間)純利益>（億円）



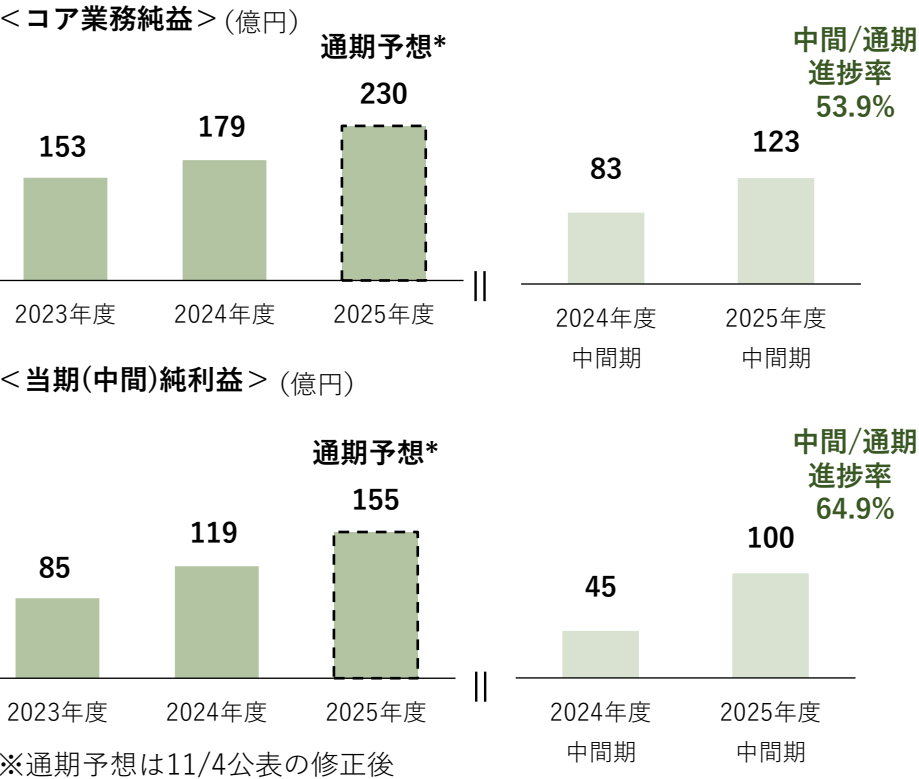
※通期予想は11/4公表の修正後

	業績予想 中間期	2025年度		2024年度
		中間期	前年同期比	中間期
コア業務粗利益	【300】	318	45	272
資金利益		289	40	249
うち貸出金利息		273	53	220
うち有価証券利息		39	7	32
役務取引等利益		34	1	33
その他（国債等債券損益除く）		△ 6	3	△ 9
経費（△）	【205】	194	5	189
（参考）OHR		61.05%	△8.38%	69.43%
コア業務純益	【95】	123	40	83
国債等債券損益		△ 3	1	△ 5
実質業務純益		120	42	77
与信関係費用（△）	【15】	△ 5	△ 43	37
株式等損益		16	△ 6	22
経常利益	【85】	141	82	59
特別損益		△ 2	△ 4	2
法人税等（△）		39	23	16
中間純利益	【55】	100	55	45
ROE		9.55%	5.00%	4.55%

業績ハイライト

コア業務純益 123億円（前年同期比 + 40億円）
貸出金利息や有価証券利息など資金利益が改善したことを主因に前年同期比40億円増加。

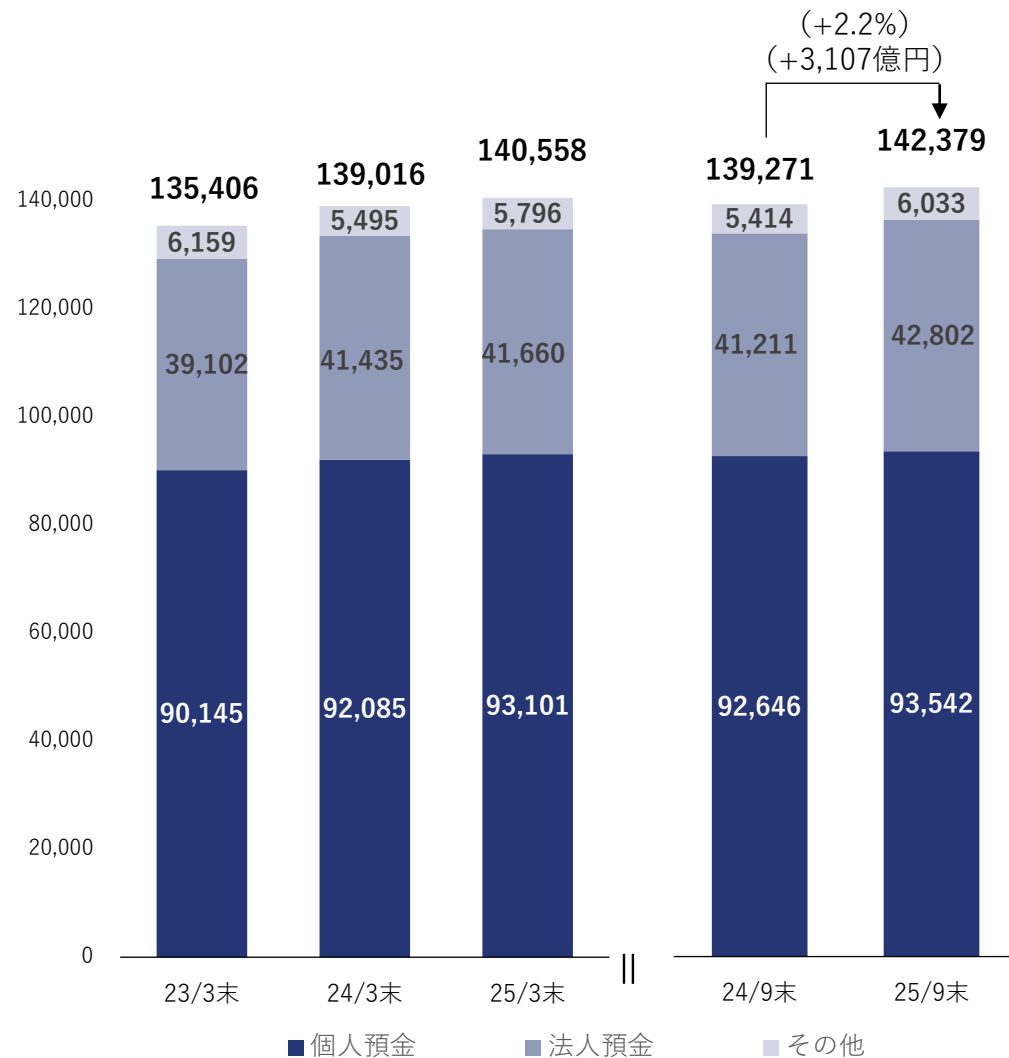
中間純利益 100億円（前年同期比 + 55億円）
コア業務純益の増加に加え、与信関係費用の減少などにより、前年同期比55億円増加。



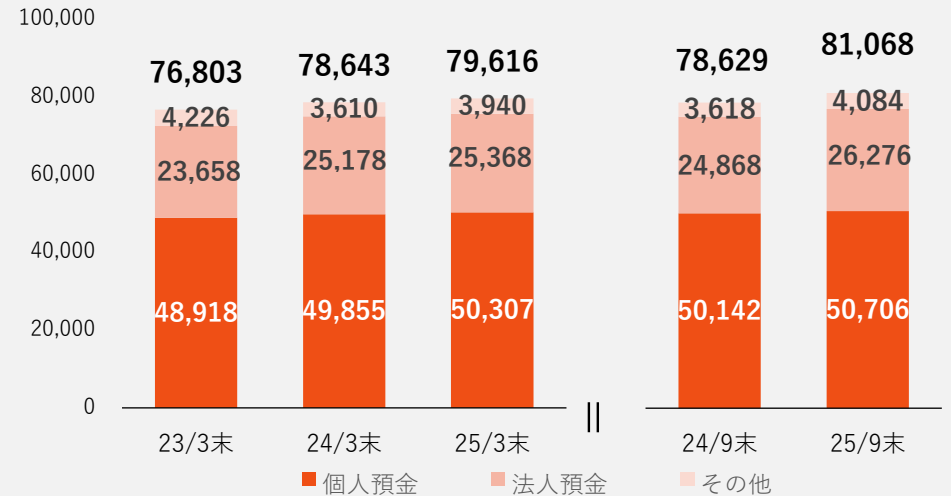
➤ 預金残高は、個人・法人を中心に残高が伸長し、前年同期比3,107億円増加の14兆2,379億円

預金・NCD残高（億円）

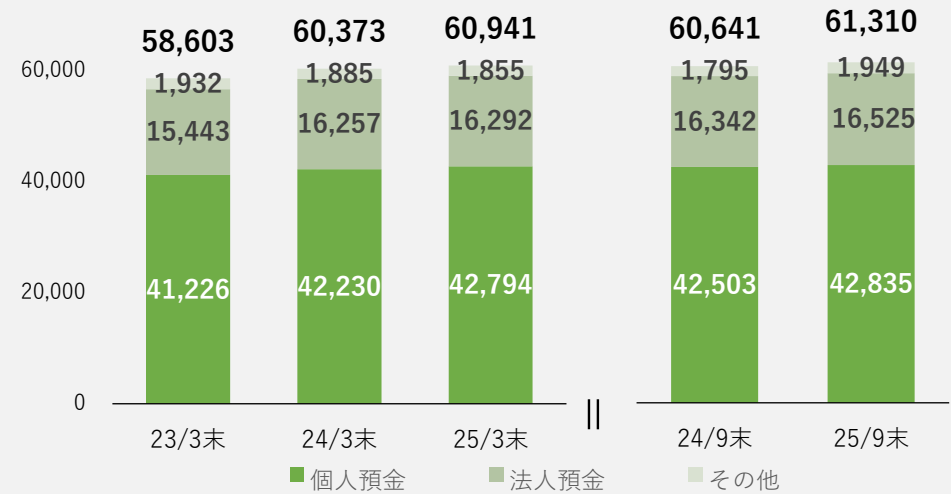
[2行合算]



[北陸銀行]



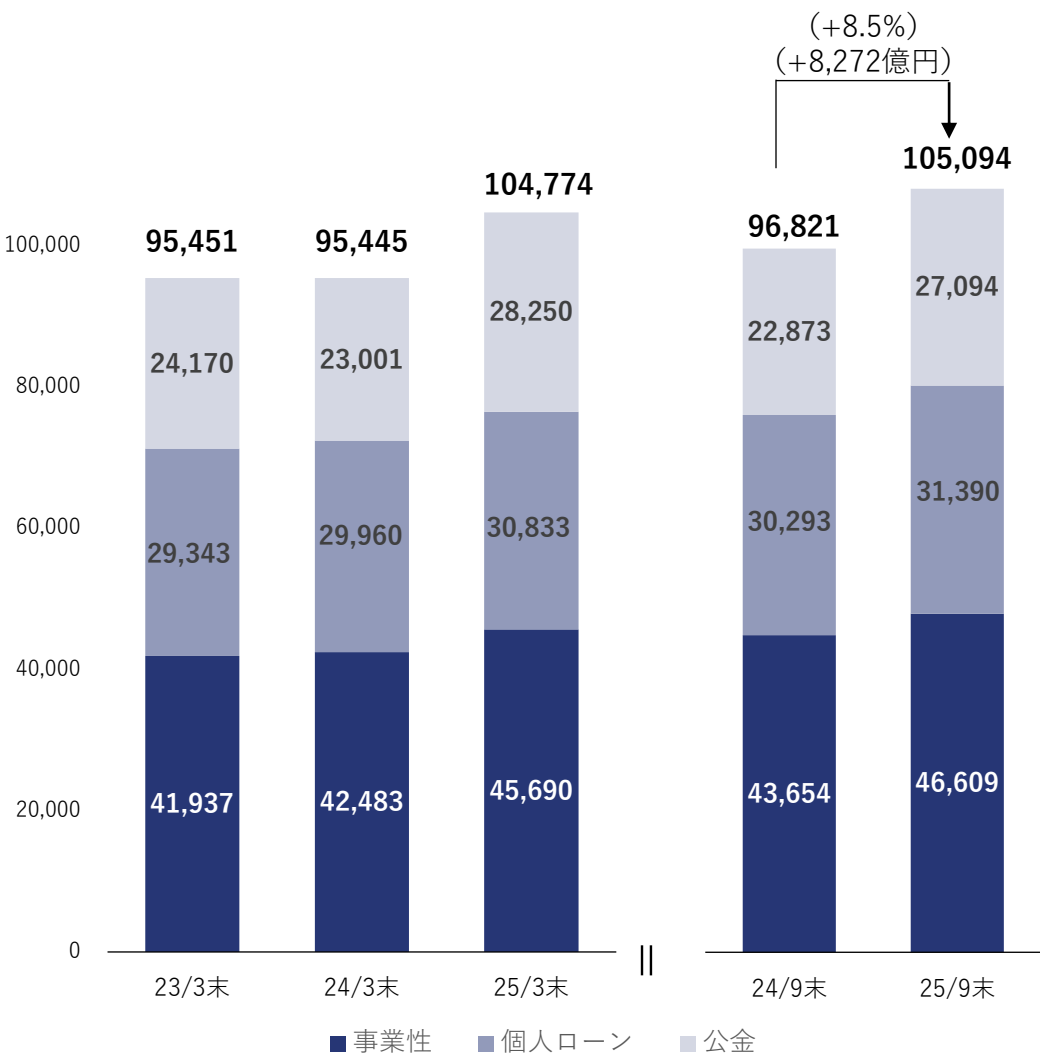
[北海道銀行]



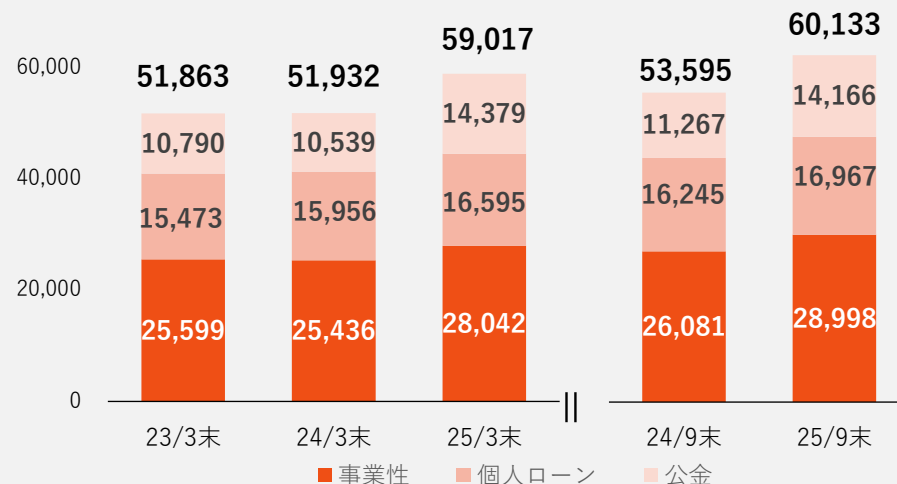
➤ 貸出金残高は、事業性貸出・個人ローン中心に残高が伸長し、前年同期比8,272億円増加の10兆5,094億円

貸出金残高（億円）

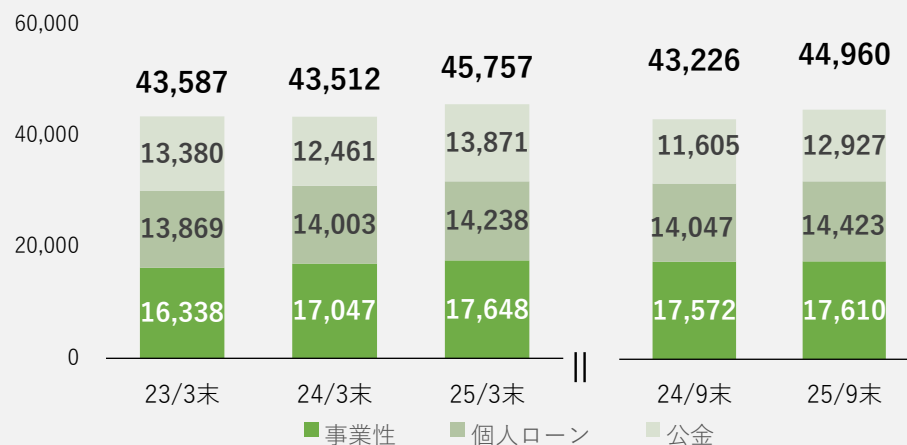
[2行合算]



[北陸銀行]

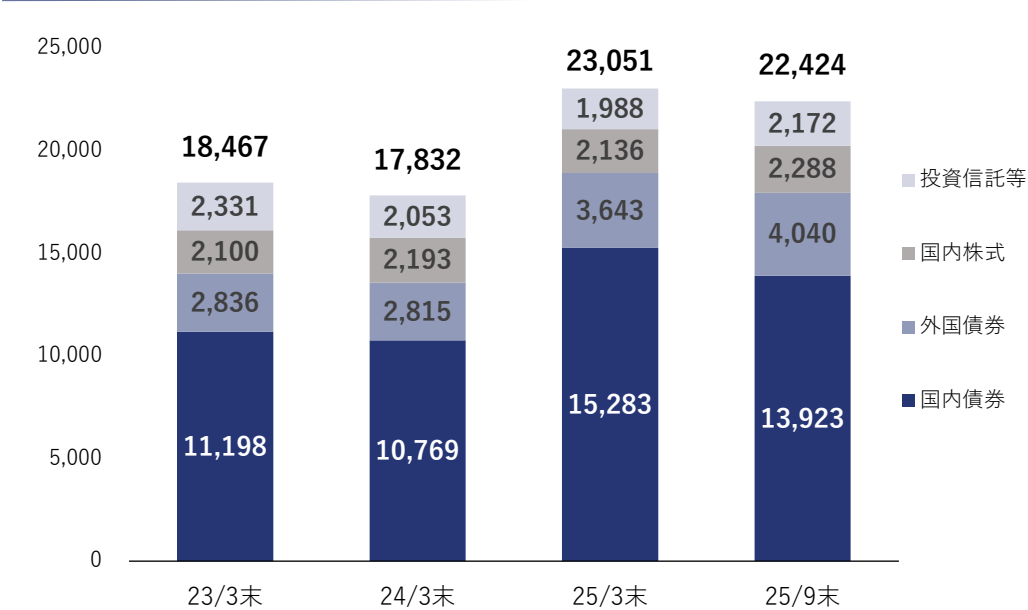


[北海道銀行]

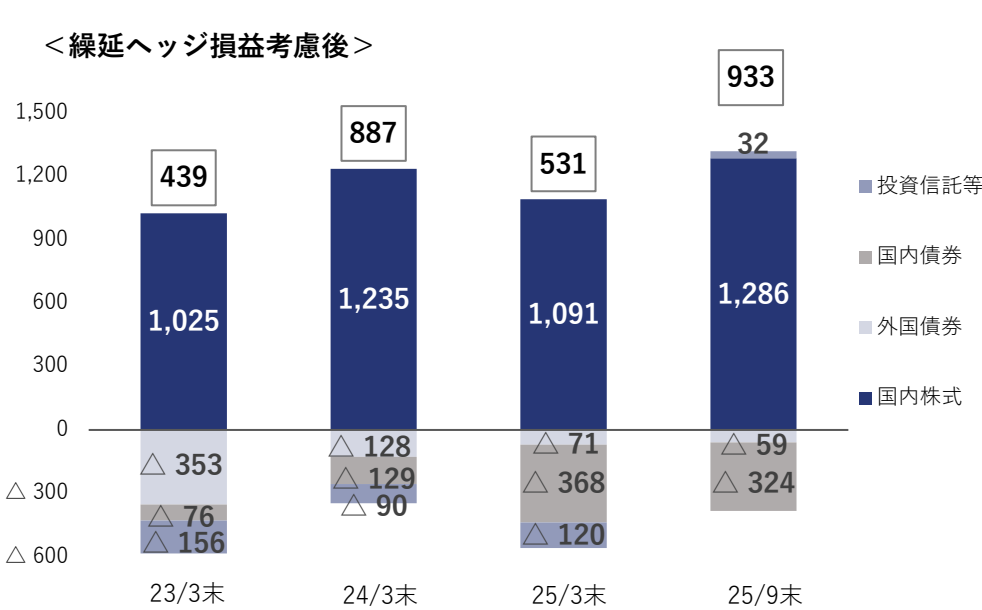


➤ 債券デュレーションの短期化やポートフォリオの入替を進めてきたことで、評価損益は大きく改善

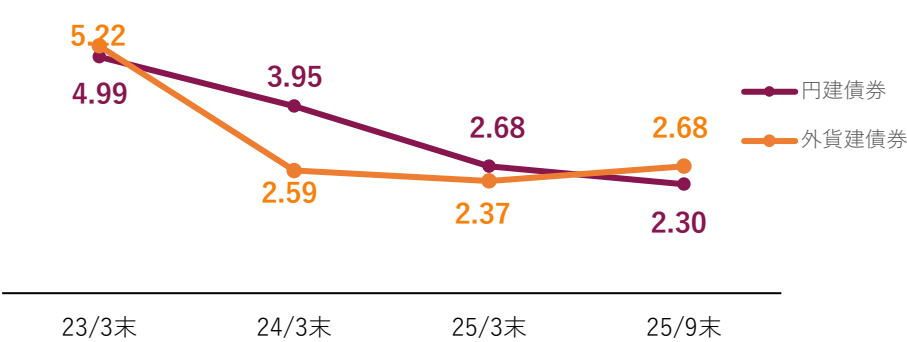
有価証券残高（億円） [2行合算]



有価証券評価損益（億円） [2行合算]



＜債券デュレーション（年・繰延ヘッジ考慮後）＞



有価証券関係損益（億円） [2行合算]

	25/9期		24/9期
		前年同期比	
国債等債券損益	△ 49	△ 22	△ 26
売却益・償還益	1	1	0
売却損・償還損・償却(△)	50	24	26
株式等損益	77	27	50
売却益	83	25	58
売却損・償却(△)	5	△ 1	7

第6次中期経営計画（2025年4月～2028年3月）「NEXT STAGE」

		2025年9月期 実績	前年同期比	2027年度 目標
①	連結ROE	9.21%	+3.48%	8%台
②	連結中間純利益	303億円	+117億円	550億円
③	連結自己資本比率	9.90%	▲0.25%	10%台
④	OHR（2行合算）	53.99%	▲7.77%	50%台

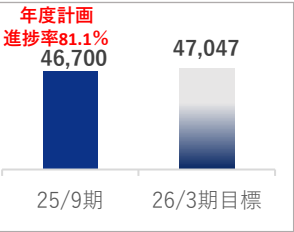
【戦略のエンジン】

金融・非金融の融合による
課題解決力の深化

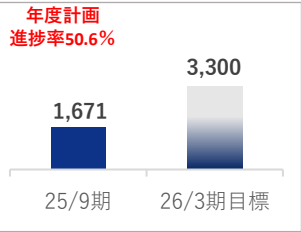
持続的な成長を支える
経営基盤の強化

多様な人材が活躍し
活力あふれる企業文化の定着

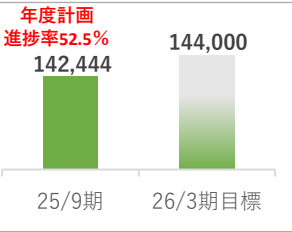
事業性融資貸出平残（億円）



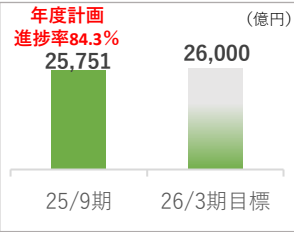
SX/GX関連投融資額（累計）（億円）



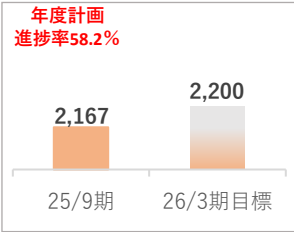
預金残高（平残）（億円）



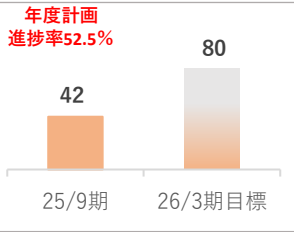
預かり資産残高（資産3,000万円以上先）（億円）



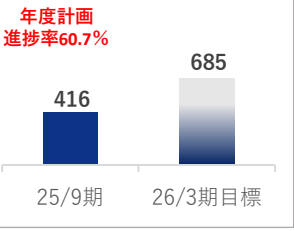
ソリューション人材（名）



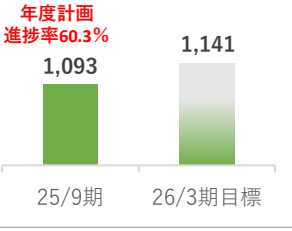
キャリア採用者数（名）



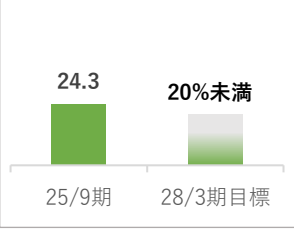
ソリューション支援件数（件）



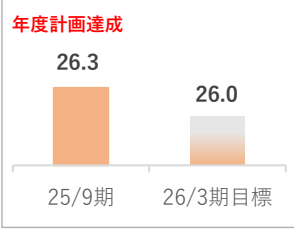
アプリユーザー数（千人）



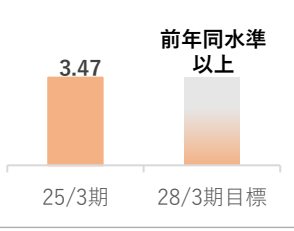
政策保有株式の連結純資産に対する比率（%）



女性管理職比率（%）



エンゲージメントスコア（5段階評価）



※M&Aアドバイザー業務・経営コンサルティング業務・DX支援件数

※従業員向けのエンゲージメント調査結果における5段階評価の平均値

本件に係るお問い合わせ先

株式会社ほくほくフィナンシャルグループ
経営企画部（担当：丸田・工藤・窪田）

TEL：076-423-7331

E-MAIL：info@hokuhoku-fg.co.jp
<https://www.hokuhoku-fg.co.jp/>

- 事前に株式会社ほくほくフィナンシャルグループの許可を書面で得ることなく本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。
- 本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載された事項の全部または一部は、予告なく修正・変更されることがあります。
- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。